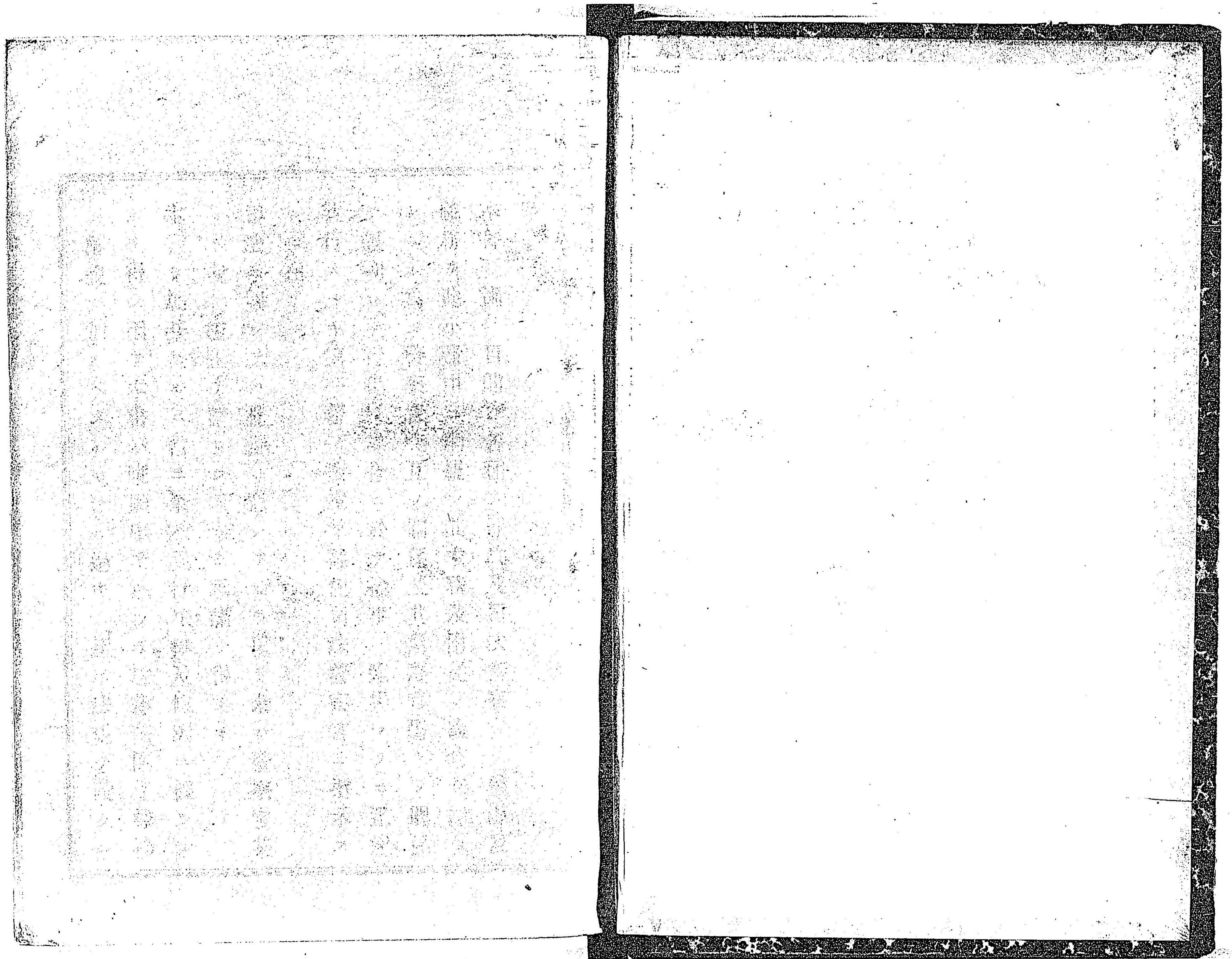


19

513

千八百八十八年ブルセル府刊行
白耳義憲兵中佐エル、アングルベール氏著
憲兵及司法警察官用
司法及行政警察訓則



19-513

序

本書著述ノ目的ハ各種ノ行政及司法警察官ノ職務ヲ此小冊中ニ網羅シ其本務及附從ノ義務ヲ知

シムル爲メ警察官交互ノ關係及其所屬官署トノ關係

ヲ叙列シ現行犯ノ場合ニ於テ檢事ノ臨場マテニ迅速

執行スヘキ第一著ノ檢證ヲ補佐司法警察官ニ指示ス

ルニ在リ

司法ニ關シテハ杜撰ノ恐レアルヲ以テ余ハ警察官某

ニ本書ハ校正ヲ請ヒシニ幸ニ承諾ヲ得タリ

本書ヲ編纂スルニ常ニ余ハ現行法律及條例ニ據ラサ

ルヲ得ス因テ本書ハ唯順序ヲ追フテ法律條例ヲ抜抄

シ解説ヲ加ハヘタルモノニ過キス新ニ法規ヲ設クル



ハ行政府及立法者ノ職分ナルヲ以テナリ
本書ハ大部ノ書ヲ緋クノ煩勞ヲクシテ容易ニ警察ノ
摘要ヲ悉知スルノ利アリ之ヲ要スルニ此書ハ特ニ新
任ノ司法警察官地方ノ區長及憲兵屯伍長ノ爲メニハ
至美ノ案内トス

参考ニ用ヒタル重ナル書籍ノ名

- 一 憲兵將校用司法警察原理(千八百五十四年出版)
- 一 ベルト氏著 憲兵用特別理論(千八百七十五年)
- 一 ナエルマン氏著 行政及行政法便覽
- 一 シロン氏著 白耳義行政法
- 一 デゾエ氏著 司法及行政警察實際法
- 一 ミゲン氏著 行政及司法警察手錄
- 一 同 外國警察要略
- 一 シユベルジエル氏著 豫審判事必携
- 一 ケルス子ル氏著 佛蘭西憲兵字書

目次

第一編	一般ノ警察	一丁
第二編	行政警察及司法警察ヲ執行スル 官吏〇其職權	四丁
第一章	警保局長	五丁
第二章	知事	六丁
第三章	郡長	十丁
第四章	區長及其委任シタル助役	十丁
第五章	警部及警部補	十四丁
第六章	官私ノ田野看守及森林看守	十六丁
第七章	憲兵將校、下士及伍長	二十丁
第八章	鐵道警察監	三十二丁

第九章	治安裁判官或ハ其代理者	三十三丁
第十章	檢事及檢事補	三十三丁
第十一章	豫審判事	三十九丁
第十二章	控訴院及控訴院檢事長	四十丁
第十三章	懲戒	四十一丁
第三編	告訴及告發	四十二丁
第四編	民事原告人	四十三丁
第五編	現行犯	四十五丁
第六編	現行犯ノ場合ニ於テ豫審ノ開始	四十五丁
第七編	迅速ナルヲ必要トスル事	四十七丁
第八編	第一著ノ搜查ヲ行フ方法	四十九丁
第九編	無私公平ナルヲ要スル事	五十七丁

第十編	豫審中執行ス可キ緊要ノ法式	五十八丁
第一章	臨場	五十八丁
第二章	書記ノ立會	五十九丁
第三章	犯罪檢證調書	六十丁
第四章	被告人ノ訊問	六十二丁
第五章	通事	六十四丁
第六章	證人ノ訊問	六十五丁
第七章	證據物件	六十九丁
第八章	鑒定人ノ報告	七十三丁
第十一編	家宅搜索	七十五丁
第十二編	身體檢査	七十六丁
第十三編	訴訟書類ノ送達	七十八丁

第十四編	現行犯ノ場合外ニ於ケル逮捕	七十九丁
第十五編	現行犯ノ場合ニ於テ逮捕	八十一丁
第十六編	囑托	八十四丁
第十七編	司法警察官ヲ尊敬ス可キ事	八十五丁
第十八編	檢事ノ臨場ノ場合ニ於テ其ノ 補佐司法警察官ノ特別ノ職務	八十六丁

書式 此編ノ理由

第一	口述告發調書	八十七丁
第二	筆記告發受領調書	八十八丁
第三	口述告訴	九十一丁
第四	檢視調書	九十二丁

第五	被告人訊問調書	百五丁
第六	被告人對質	百六丁
第七	證人訊問調書	百八丁
第八	勾引狀	百十二丁
第九	家宅搜索調書	百十三丁
○ 補佐警察官及憲兵ノ處分ヲ要スル重罪及 輕罪ノ名稱		百十五丁

司法及行政警察訓則

第一編 一般ノ警察

警察ハ政府ノ最モ須要ナル一ノ基礎トス

警察ハ公安自由所有權各人ノ安寧ヲ保護スルカ爲メ

設タルモトス

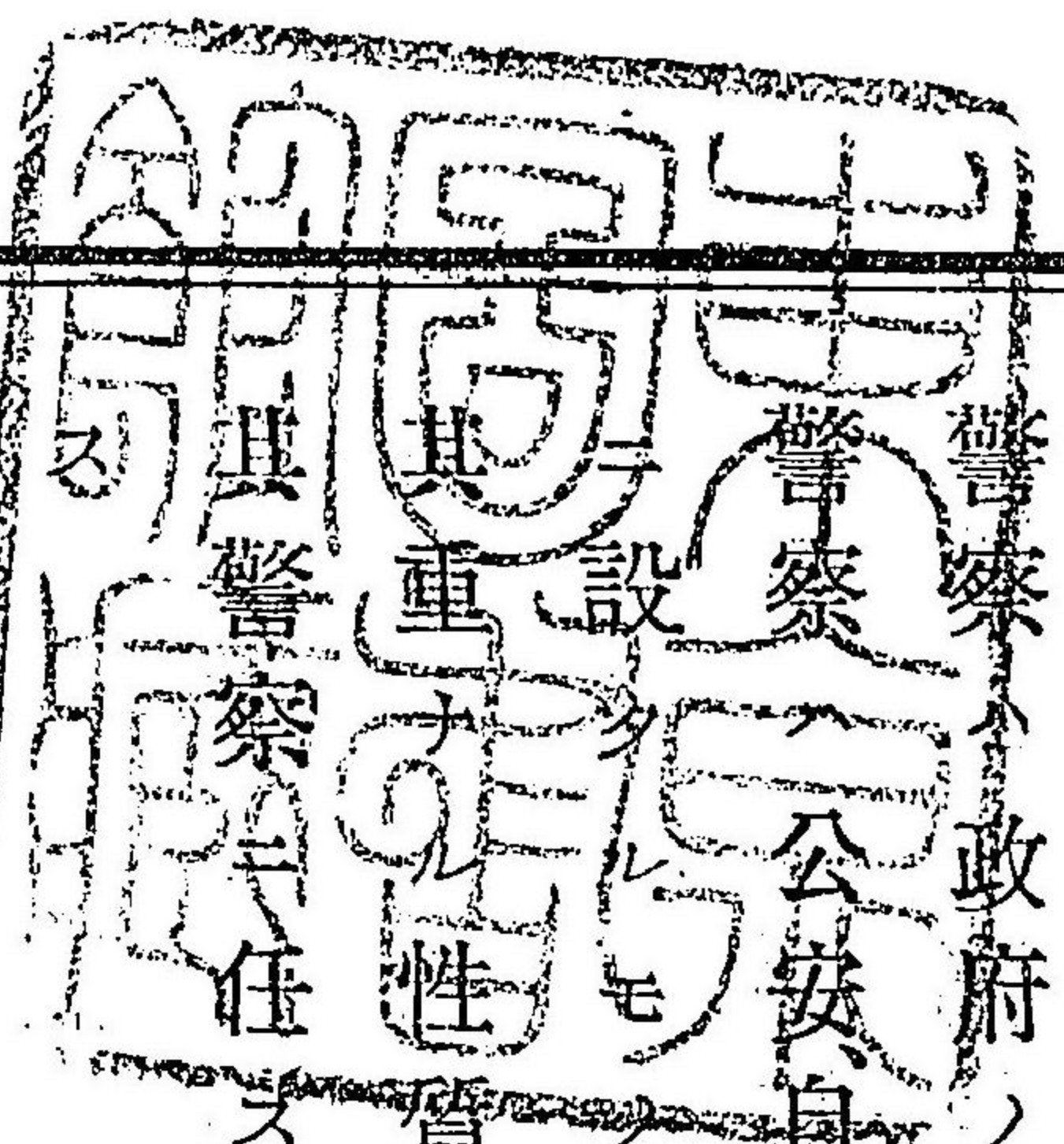
其重ナル性質ハ注意ノ周密ナルニアリトス

其警察ニ任スル者ハ全體ノ社會ニ配意ス可キモノト

警察ニ二種ノ目的アリ

其一 一般ノ靜謐ノ維持法律條例ノ遵守ヲ確實ニ

シ重罪及災害ヲ未發ニ防キ被害者及罹災者ヲ救



助シ人民ノ生命及財産ヲ保護スルコトハ是レ地
方行政警察及一般行政警察ノ目的トス
其二 重罪、輕罪、違警罪ヲ捜査シ其證據ヲ收集シ犯
人ヲ罰ス可キ裁判所ニ交付スル事ハ是レ司法警
察ノ目的トス

地方行政警察ハ内務大臣ノ至高ノ指揮ノ下ニ立テ左
ノ者之ヲ執行ス

- 第一 縣知事
 - 第二 郡長
 - 第三 區長及其委任シタル助役
 - 第四 警部及警部補
- 一般ノ行政警察ハ司法大臣ニ隸屬スル警保局長ノ職

掌トス

司法警察ハ控訴院ノ權下ニ立テ左ノ者之ヲ執行ス

- 第一 田野看守及森林看守
- 第二 警部及警部補
- 第三 警部ヲ置カサル區ニ於テハ區長或ハ區長ヲ
欠クトキハ助役
- 第四 憲兵將校下士伍長

(註) 現今憲兵下士及伍長ハ司法警察官ニ非ス、然レト
モ過般衆議院ニ於テ可決シ貴族院ニ於テ修正ヲ
加ハヘタル新刑事訴訟法ニハ憲兵下士卒ヲ司法
警察官トス(千八百八十七年三月一日ノ會議)
總ヘテノ場合ニ於テ憲兵ニ係ハル特別法律ニ因
リ憲兵下士卒ハ其調書中ニ告訴、告發及其發見シ

タル重罪或ハ輕罪並ニ犯人ナリト思料セラレ、
人ニ關シ知リタル諸件ヲ記載セサル可カラス(共
和曆第六年芽月二十八日ノ法律第二百五條及
第二百二十六條)

第五 鐵道警察監

第六 治安裁判官或ハ其代理者

第七 檢事及檢事補

第八 豫審判事

凡ソ司法警察官ハ豫審判事ヲ除クノ外檢事ノ補佐ト
ス、然シ又司法警察官ハ憲兵卒巡查等ヲ其補佐トス

第二編 行政警察及司法警察ヲ執行スル
官吏〇其職務

第一章 警保局長

千八百三十二年一月九日ノ勅令ノ正文ニ依リ警保局
長ハ司法大臣ニ隸屬シテ一般警察上ノ法律及條例ノ
執行ノ監督ヲ專任ス

警保局長ハ他ノ諸省大臣ト直接ニ交通スルコトヲ得
且又諸官吏、憲兵將校及屯伍長ト直接ニ交通シ一般ノ
警察上ノ法律及條例ノ實施ノ爲メ必要欠ク可カラサ
ル處置ヲ爲ス可キ事ヲ關係ノ各文武官ニ請求スルヲ
得

革命ノ企謀ニ對シ我政府ヲ保護スル事並ニ外國人我
國ニ於テ謀反ヲ計畫スルヲ遮妨シテ其外國ヲ保護ス
ル事ニ關シテ警保局長ハ諸官吏ト直接ニ交渉ス

六
外國人ニ對スル警察ノ諸處分ヲ行フニ於テハ警保局長ノ干涉スルヲ要ス、因テ警保局長ハ區役所、警部、憲兵將校及屯伍長ニ訓令ヲ授ケ之ヲ實施セシム可シ、假令モ外國人ノ所爲ハ刑法ノ違犯トナラスト雖モ公安或ハ國交際ヲ妨害スヘキ性質アルトキハ區役所ヨリ之ヲ警保局長ニ通告セサル可カラス、國安ニ係ハル所爲、國王、皇族或ハ外國ノ君主ニ對スル侮辱或ハ加害、我政府ニ對スル謀反、同盟罷工、議政集會、擾亂ヲ釀成スヘキ主意ノ表章等アルトキモ亦然リトス

第一章 知事

縣會ノ政府委員ハ知事ト稱ス、知事ハ國王之ヲ任ス(縣

治法第四條)

知事ハ特別勤務ノ爲メニ設ケアル他ノ行政官吏ト異ナリテ其縣ニ於テ一般ノ行政ヲ代表ス、其職權ハ軍政、刑政及財政ヲ除ク外ノ諸政務ヲ包含ス、知事ハ各省大臣就中縣治ヲ司ル內務大臣ニ屬ス、各省大臣ハ各縣知事ヲ媒者トシテ全國ニ散在シアル其所屬官吏ニ法律ヲ實施セシム、知事ハ縣ノ靜謐、公安、生命、財産ノ安寧ヲ維持スルコトニ注意セシム可シ、因テ此件々ニ係ハル法律ニ因リ憲兵及護郷兵ヲ使用ス、兇徒嘯集、反亂ノ場合又ハ暴行ヲ以テ法律或ハ勅令ノ執行ニ抗拒スル場合ニ於テ知事ハ兵力ヲ請求スルノ

權利ヲ有ス
 爾ルトキハ直チニ内務陸軍ノ兩大臣ニ此旨ヲ報告ス
 可シ、軍隊ヲ司令スル將校ハ知事ノ筆記請求ニ應セザ
 ル可カラス(縣治法第二百二十八條及第二百二十九條)
 法律ニ於テ憲兵及護郷兵ト師團兵即チ本來ノ兵隊ト
 ナ區別ス
 憲兵及護郷兵ハ靜謐及公安ヲ維持セシムルカ爲メ即
 チ豫防處分ノ爲メニ之ヲ使用ス
 兇徒嘯集ヲ解散シ反亂暴行等ヲ鎮壓スルヲ要スルト
 キ即チ事ノ發シタル時ニ非レハ師團兵ヲ請求ス可カ
 ラス(千八百四十七年三月九日及千八百五十四年九月
 九日ノ達)

知事ハ一般ノ靜謐ヲ妨害ス可キ事件ノ通知ヲ速ニ受
 ケ且ツ公安ノ維持ニ關シ豫防處分ヲ施スヲ要ス可キ
 諸件ノ報告ヲ受ク可シ
 知事ハ靜謐ヲ妨害スルノ恐レアルトキハ憲兵ヲ使用
 セシムルコトヲ得
 知事ハ公安ヲ恢復スルニ必要ナル憲兵ノ伍數ヲ一危
 點ニ出張セシムルノ命令ヲ下スコトヲ得(千八百十五
 年一月三十日和蘭國王ノ勅令第二十九條)
 知事管内ヲ巡廻スルニ方リ請求スルトキハ憲兵署ヨ
 リ知事ニ護衛兵ヲ附ス可シ、此護衛兵ハ伍長一人及憲
 兵四人ヲ以テ編組ス(共和曆七年穡月二十四日ノ勅令
 第二編第三章)

第三章 郡長

各郡ニ政府委員一名ヲ置ク、之ヲ郡長ト稱ス(縣治法第百三十二條)

郡長ハ縣廳ト區役所トノ中間ニ立テル者ナリ、其事務所ハ殆ト支廳ノ如キモノニシテ其郡ノ事務ヲ處理スル所トス

郡長ハ知事ニ屬シテ其管内ノ靜謐及公安ノ維持並ニ生命財産ノ保護ニ注意ス因テ法律ニ從ヒ憲兵、師團兵及護郷兵ヲ使用スルコトヲ得(縣治法第百三十九條)是故ニ此點ニ於テ其職權ハ知事ト同一ナリトス

第四章 區長及其委任シタル助役

區長ハ行政警察官及司法警察官ノ職務ヲ兼任ス、是レ

唯行政警察ノ職務ノミヲ有スル前記三職員ト異ナル所ナリ

區長及助役ハ法律條例等ノ執行及區會議決ノ公告並ニ執行ヲ擔當ス

區長ハ獨リ警察上ノ法律及條例ノ執行ヲ擔任シ其身ニ責任ヲ負荷シテ此職權ノ全部或ハ一部ヲ助役一人ニ委任スルコトヲ得

騷亂、嘯集、公安ニ對スル重キ妨害或ハ其他不慮ノ事件ノ場合ニ於テ區長或ハ其代理者ハ直接ニ護郷兵及陸軍官憲ノ干涉ヲ請求スルコトヲ得、爾ル時護郷兵及陸軍官憲ハ其請求ニ應セサル可カラズ(區治法第百五條、千八百五十四年九月十三日ノ達)

區治法ニ於テ郡長ニ與フル權限ハ縣治法ニ因リ知事ニ授クル權限ト同一ナリトス、因テ區長ハ公安維持ノ爲メ巡查、消防手、護郷兵及憲兵ヲ使用ス、然シ事ノ既ニ起リ鎮撫スルヲ要スル時ニ非レハ師團兵ヲ請求スルコトヲ得ス(千八百五十四年九月九日ノ達) 因テ豫防處分ノ爲メニ法律ハ師團兵ヲ請求スルコトヲ許サス

又區長ハ緊急ノ場合ニ於テ警察條規ヲ設クルコトヲ得、此場合ニ於テハ即時ニ之ヲ區會ニ通知シ且區會ノ議事ニ附スル暇アラザリシ理由ヲ具シタル書面ヲ添ヘ此條規ノ寫書ヲ直テニ縣知事ニ送呈ス可シ、普通ノ場合ニ於テハ條規ヲ設クルノ權獨リ區會ニ屬スルノ

故ヲ以テ此手續ヲ踐マサルヲ得サルナリ 行政警察ニ關シテハ區長ハ其區内ニ於テ間斷ナク勤務スル眞實ノ警察長ナリトス、區長ハ其權限ヲ助役一人ニ委任スルコトヲ得 區長ハ司法警察官トシテハ普通ノ違警罪ノ搜查ハ勿論森林看守及田野看守ノ特ニ擔當スヘキ違警罪ヲモ搜查シ違警罪ニ係ハル報告、告訴及告發ヲ受ケ、違警罪ノ性質、情狀、犯罪ノ時及場所、犯人ト思量セラル、者ノ表罪證憑ヲ調書ニ記載シ遲クモ三日以内ニ此調書ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致ス可シ 又檢事ノ補佐タル警察官トシテ區長或ハ助役ハ其認知シタル諸重罪輕罪ヲ速ニ檢事ニ傳告シ、告發ヲ受ケ、

現行犯ノ場合又ハ現行犯ニ準スル場合ニ於テ又ハ當該官吏ヨリ委任ヲ受クル時ハ調書ヲ作り證人ノ陳述書ヲ受ケ、家宅搜索ヲ爲シ及法規ニ依リ其他檢事或ハ豫審判事ニ歸スル處分ヲ行フ可シ
 區長ヲ欠クトキ司法警察官ノ職務ハ助役或ハ其委任ヲ受ケタル區會議員一名ハ檢事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ執行ス
 警部アル區ニ於テ此職務ハ警部或ハ警部補之ヲ執行シ區長或ハ助役ハ之ヲ執行スルコト無シトス
 區長ハ警部ノアル區ニ於テモ常ニ行政警察長ナリトス

第五章 警部及警部補

警部ハ行政警察官トシテハ區長ニ屬シ又司法警察官トシテハ檢事ニ屬シテ勤務ス
 之ヲ例セハ豫防警察處分ヲ取り騷亂ヲ豫防シ公安ノ維持ヲ確實ニシ火災或ハ傳染病流行ノ場合ニ於テ救助シ、泥土ノ除去、共同燈火ニ注意シ街路人道或ハ下水、唧筒共同貯水器ノ毀損ヲ防制シ、道路ノ諸條例ヲ遵守セシメ、衛生上ノ景況ニ注意スルニ就テハ警部ハ區長ノ諸命令ヲ實行セサル可カラス、
 之ニ反シテ警部ハ司法警察官トシテ勤務スルトキハ區長ヨリ命令ヲ受クルコトハ絶ヘテ無シトス、是故ニ區長ハ重罪、輕罪或ハ違警罪犯人ニ對シ調書ヲ作り又之ヲ檢事或ハ違警罪裁判所ノ檢察官ニ送ルコトヲ警

部ニ禁スルコトヲ得ス(千八百七十五年六月二十五日ノ達)

又區長ハ警部カ司法上ニ關シテ作レル調書ノ披見ヲ請求スルコトヲ得ス(千八百七十五年八月三十一日ノ達)

警部ノ本務ハ其認知シタル諸重罪、輕罪ヲ直接ニ檢事ニ傳告シ此事ニ關シテ機敏ニ處置シ地方官吏ニ對シ強硬ニシテ其獨立ヲ保全スルニ在ルコトヲ寸時モ忘ル可カラス

其司法上ノ職務ハ警部ナキ區ニ於テハ區長ニ屬ス

第六章 官私ノ田野看守及森林看守

田野看守ハ主トシテ所有物、收獲物及農産物ノ保存ニ

注意スルカ爲メニ設クルモノトス

田野看守ハ郡長ニ屬シテ警察上ノ法律及條例ノ執行並ニ公安及町村ノ靜謐ニ關與ス可シ(田野法第五十二條)

田野看守ハ其所管地方ニ於テ田野及森林ニ係ハル輕罪、違警罪並ニ漁獵犯罪ヲ憲兵ト共ニ搜查シ檢證ス可キモノトス、田野看守ハ現行犯人ヲ發見シ其罪ハ三月以上ノ禁錮ノ刑ニ該ルトキハ之ヲ逮捕シ治安裁判官或ハ區長ノ許ニ引致スルコトヲ得(治罪法第十六條及千八百七十四年四月三十日ノ法律)

政府ノ田野看守、町村ノ田野看守及公立舍ノ田野看守モ亦田野ニ於テ此諸輕罪違警罪ヲ檢證スルノ資格ヲ

有ス(田野法第六十七條)

其調書ハ之ヲ作り終ハリタル日ヨリ遅クトモ其翌々日マテニ其地方ノ治安裁判官若クハ其居住地ノ區長又ハ犯所或ハ犯罪ヲ檢證シタル地ノ區長ノ許ニ出頭シ此書ノ通り相違之レ無キコトヲ誓言ス可シ、然ラサレハ調書ノ件々ハ總ヘテ無効ナリトス、

若シ此調書ハ看守自ラ筆記セサルトキ之ヲ受ケタル官吏ハ先ツ其面前ニ於テ之ヲ朗讀シ此法式ヲ履行シタルコトヲ誓言證書ニ記載ス可シ、然ラサレハ其効ナキモノトス

政府及町村ノ田野看守及森林看守ハ假令ヘ現行犯ノ場合ニ際會スト雖モ司法豫審ヲ開始スルコトヲ許サ

ス

此看守ハ其居住地ノ治安裁判官ノ面前ニ於テ左ノ宣誓ヲ爲シタル後ナニ非レハ其職務ニ就クコトヲ得ス

余ハ誓テ國王ニ忠義ヲ盡クシ白耳義國ノ憲法及諸法律ヲ遵守セン(田野法第五十六條及第六十三條)

其職務執行中田野看守ハ劍附小銃一挺、短銃一挺及軍刀一振ヲ携帯スルコトヲ得、小銃ノ式ハ内務大臣之ヲ定ム(田野法第五十九條)

私雇田野看守ハ數連發銃ヲ携帯スルコトヲ得(田野法第六十二條)

政府、町村及共立舎ノ田野看守ニハ狩獵ヲ爲スコトヲ禁ス、此禁制ハ私雇看守ニ之ヲ適用セス但シ私雇田野

看守ハ狩獵ニ係ハル法律及條例ヲ遵守ス可キモノトス
 其職制ニ據レハ田野看守ハ區長ニ對スルノ外ハ直接ニ關係アル者ノ無キコト明白ナリト雖モ然シ重大ノ事件ヲ即時ニ憲兵署ニ傳告スルノ違アリナカラ其知レル事件、重罪輕罪ヲ之ニ通知セサルトキハ全ク國民タルノ義務ヲ欠キタルモノトス、且ツ區長ニ對シ爲ス可キ口實ナシトス何トナレハ區長ハ憲兵署及檢事ニ通告スル爲メ他ニ便法ナクハ速ニ田野看守ヲ送遣スルノ義務アルヲ以テナリ

第七章 憲兵將校下士及伍長

憲兵ハ特ニ王國內ニ於テ公安ノ維持及法律ノ執行ヲ

確實ニスル爲メニ設ケラレタル公力ノ一部分ナリトス(千七百九十一年九月三日乃至十四日ノ憲法第四編第一條、第二條及第十三條○共和曆第六年芽月二十八日ノ法律第一條○千八百十四年二月二十七日ノ勅令第一條及第二條○同年十月二十六日ノ勅令第一條) 憲兵ハ陸軍兵ノ一部分ナリトス、然レトモ其擔任スル勤務ニ於テハ著ルシキ區別アリ、陸軍ハ國王ノ直接或ハ間接ノ指揮ヲ受ケテ外敵ニ對シ國家ヲ防衛スルモノナリ(千七百九十一年ノ憲法第四章第七條及千八百三十一年ノ憲法第六十八條)
 之ニ反シテ憲兵ハ國內ニ於テ國安ヲ妨害ス可キ諸種ノ秩序紊亂ヲ豫防シ時宜ニ依リ鎮壓スルカ爲メニ設

ケラレタルモノナリ
 又憲兵ト護郷兵ト區別アリ、護郷兵モ亦其設立ノ目的ハ王國內ニ於テ公安ノ維持及法律ノ執行ヲ確實ニスルニ在リト雖モ是レハ一種ノ陸軍兵隊ニ非ス因テ官署ノ請求アルニ非レハ動作スルコトヲ得ス、然ルニ憲兵ハ概テ豫メ請求ヲ受クルコト無クシテ法律ニ依リ其職務ヲ行フ者ナリ(千八百三十年十二月三十一日ノ條例第一條、第二條、第三十七條、第三十八條及第三十九條○千八百四十八年五月八日ノ法律第五條○共和曆第六年芽月二十八日ノ法律第二百二十六條)此最後ノ法律ニハ此區別ヲ明記ス、曰ク間斷ナク監視ヲ周密ニシ不良ヲ制止スルヲ憲兵ノ本務トスト(第一條)

然シ陸軍兵隊、護郷兵及憲兵ハ前記ノ一事件ニ方リ合同動作スルヲ要スル重大ノ場合ニ於テハ常ニ相救援スルモノトス(第二條)チエルマン氏著行政法便覽第八編第三章憲兵ノ部
 憲兵ハ一般ノ行政法規ニ定メラレタル方法及制限ニ於テ豫防警察及行政警察ニ參與ス可シ
 憲兵ハ市日祭日及公儀等ノ場合ノ如キ人民ノ群集スル時適宜ノ所ニ在テ公安ヲ維持ス可シ
 憲兵ハ法律ニ規定セル方法及法式ニ從ヒ重罪及輕罪ヲ捜査シ其調書ヲ作り犯人ヲ逮捕スルヲ任トス
 又憲兵ハ一般ノ警察上ノ法律條例並ニ稅關法ノ違犯ヲ檢證ス可キモノトス

重罪輕罪或ハ違警罪ヲ犯ス者アル毎ニ之ヲ制止スル
 ハ憲兵ノ常務ナリトス(共和曆第六年芽月ノ法律第百
 二十五條及第百二十六條)
 憲兵科ノ諸員ノ任所ハ何レナルヲ問ハス王國內ノ何
 地ニ出張スルモ其行ヘル所爲ハ有効ナリトス因テ其
 到ル所ニ於テ調書ヲ作ルコトヲ得
 是故ニ重輕罪被告人ヲ追フトキ隣郡ニ赴キ之ニ追ヒ
 付タマテ又ハ最近ノ憲兵屯所ノ兵ノ交代ヲ受クルマ
 テ其追跡ヲ繼續スルコトヲ得
 憲兵科ノ諸員ハ警察條例ニ從ヒ閉店スヘキ時刻マテ
 ハ夜中ナリトモ其職務執行ノ爲メニ旅館、酒店及其他
 公衆ヲ客トスル家ニ臨檢スルコトヲ得

各人民ノ家屋ハ夜中干犯ス可カラサルモノナルニ因
 リ火災、洪水ノ場合又ハ救助ヲ乞フノ呼聲ノ戶外ニ洩
 ルハ場合ニ非レハ憲兵科ノ諸員ハ此家屋ニ入ルコト
 ナ得ス
 憲兵科ノ諸員ハ晝間ト雖モ現行犯ノ場合ニ於テ又ハ
 令狀執行ノ爲メ田野看守及森林看守以外ノ司法警察
 官(治罪法第十六條)ト同伴スルトキ若クハ此看守中ノ
 一人此資格ヲ有スル時ニ非レハ其家屋ニ入ルコトヲ
 得ス

總ヘテノ場合ニ於テ憲兵科ノ諸員ハ公安ノ維持或ハ
 回復及判決、宣告、令狀等ノ執行ノ爲メニ當該官署ヨリ
 請求ヲ受クルトキ其權限内ニ於テ之ヲ執行ス可シ

此請求ヲ爲スノ權ヲ有スル官吏ハ左ノ如シ

- 一 縣知事
- 一 郡長
- 一 區長及其代理者
- 一 控訴院檢事長
- 一 檢事及檢事補
- 一 豫審判事
- 一 警部
- 一 田野看守及森林看守
- 一 治安裁判官
- 一 法院及裁判所ノ執達吏但シ令狀、禁錮狀、體刑ノ宣告書ヲ携帶スルトキニ限ル

一 稅關官吏

前記各官ノ請求權ヲ使行シ得ル場合ハ法律ニ之ヲ定ム

此請求ハ左ノ憲兵科員ニ之ヲ爲ス可シ

- 一 縣ノ治所ニ在テハ憲兵隊長
 - 一 郡ノ治所ニ在テハ憲兵分隊長
 - 一 其他ノ點ニ於テハ屯伍長
- 拒絕セラル、場合ニ於テハ更ニ其請求ニ應セザリシ者ヲ直轄スル將校ニ請求書ヲ送致ス可シ
- 憲兵ノ最モ須要ナル此勤務ハ最モ能ク研究スルヲ要スルモノトス、如何ナル請求ヲ憲兵ニ爲ス可キヤハ法律ニ定ムルト雖モ官署或ハ憲兵ノ方ニ於テ見解ヲ誤

リ是レカ爲メ職權爭ヲ生シ勤務ヲ拒絕スルニ至ルコト往々ニシテアリ、是レ務メテ避ク可キ事ナリトス。是故ニ憲兵就中將校ハ私用等ヨリ生スル違法ノ請求ニ應セサルカ爲メ又ハ適法ニシテ正當ナル請求ヲ誤テ拒絕セサル爲メニ其當否ヲ識別シ彼我ノ關係ヲ圓滑ニセサル可カラス。若シ請求ノ當否ニ關シ疑團ノ生ズル場合ニ於テ憲兵ハ常ニ此請求ニ從ハサル可カラス但シ弊害ノ再ヒ現セサルカ爲メ其旨ヲ陸軍ノ上官ニ報告スルモノトス。豫知シタル通常或ハ臨時ノ集會、大祭或ハ兇徒嘯集ノ場合ニ於テ單ニ公安ヲ維持スルノミナルキ地方官署ハ臨機應變ノ豫防處置ヲ決スルカ爲メニ陸軍官憲

ト協議ヲ遂クルヲ要ス(千八百十五年一月十一日)ノ法律第十九條ハシノミト氏必要塞司令官必携第二部編四百四十三頁、千八百五十四年九月九日ノ廻達第三百九十七頁、千八百六十七年十月二十三日ノ廻達三百九十一頁。此場合ニ方リ至急ヲ要スル時此陸軍官憲ハ其受ケタル出兵ノ請求ヲ高等地方官署ニ照會スルニ電報ヲ用フルヲ得是レ須ク注意ヲ喚起ス可キ事ナリトス(千八百八十五年三月二十七日ノ廻達)。地方官署ノ請求ヲ執行スルニ際シ將校下士及伍長ハ陸軍大臣ニ屬シ同大臣ヨリ受ケタル訓令ニ從ヒ動作ヲ指揮セル其上長ニ服從ス可キモノトス。

地方官吏ハ決シテ軍事上ノ動作ニ干涉スルコトヲ得ス(共和曆第六年芽月二十八日ノ法律第三百三十八條) 人身或ハ財産ニ對シ攻撃或ハ暴行ヲ加フル場合ニ於テ司令官ハ豫メ請求又ハ告諭ナクモ之ヲ制止シ抵抗ニ逢フトキハ兵器ヲ使用シテモ成ル可ク加害者及誘起者ヲ逮捕ス可ク若クハ被害者ヲ遠ケ又ハ被害家屋ヲ防衛ス可シ(治罪法第六條、共和曆第六年芽月二十八日ノ法律第三百三十一條及第三百三十二條、千七百九十一年七月二十六日ノ法律第二條、千八百三十四年四月十一日ノ廻達)

憲兵科ノ軍事職權及特別職權ノ外憲兵將校下士及伍長ハ前既ニ言ヘルカ如ク其管下ノ地ニ於テ犯シタル

違警罪、輕罪及重罪ニ係ハル告訴告發ヲ受ク可シ 憲兵將校下士及伍長ハ其發見シタル重罪、輕罪、違警罪或ハ訴ヘラレタル諸罪並ニ犯人ナリト思料セララル、者ニ關シ知リタル諸件ヲ悉ク調書ニ記載ス可シ(共和曆第六年芽月二十八日ノ法律第二百五條及第二百二十六條)

此調書ハ重罪或ハ輕罪ニ係ハルトキハ檢事ニ、違警罪裁判所管轄ノ違警罪ナルトキハ此裁判所ノ檢察官ニ延滞無ク之ヲ送致ス可シ 司法警察官ノ作レル調書中ノ件々ハ反證ノ舉カルマテ實正ナルモノトス 出戰軍ニ於テ憲兵ノ職務ハ内國ニ於テ通常ノ勤務中

執行スルモノニ同シ、重罪、輕罪、違警罪ノ檢證、犯人ノ追跡及逮捕、行軍野營舍營ノ警察、公安ノ維持、從軍ヲ許可セラレタル者ノ監視ハ憲兵ノ職分トシ、此諸職分ヲ以テ本來ノ司憲勤務トス之ニ輜重勤務及軍虜護衛ヲ加ヘサル可カラス(千八百三十二年七月二十七日ノ野外要務令第百六十九條)

非軍人、從軍商人、酒保及從僕ニ關スル警察ハ特ニ憲兵ノ管轄トス(前記條例第百七十三條)

第八章 鐵道警察監

鐵道警察監ハ鐵道ノ構内及其附屬地(五百米突)ニ於テ犯サレタル重罪、輕罪、違警罪ノ檢證ニ關シテハ司法警察官ノ職權ヲ有ス

其調書ハ反證ノ舉カルマテハ實正ナルモノトス

第九章 治安裁判官或ハ其代理者

治安裁判官或ハ其代理者ハ司法警察官トシテ警察ニ參與ス

治安裁判所或ハ其代理者ハ法律ニ依リ豫審判事ニ歸スル豫審上ノ諸處分ヲ此判事ノ囑托ニ因テ行フコトヲ得、但シ勾引狀及逮捕狀ヲ發スルハ此限ニ在ラス

第十章 檢事及檢事補

司法警察ニ係ハル檢察官ノ職務ハ罪ノ現行犯或ハ准現行犯ナルト非現行犯ナルトニ依リテ全ク之ヲ異ニス、檢察官ハ原則ニ於テ唯起訴ヲ爲スノミナリト雖モ現行犯ノ場合ニ於テハ一時起訴權ニ豫審權ヲ併合ス

此場合ニ於テ檢察官ハ豫審判事ノ臨場スルマテ此判事ノ職務ヲ代理ス、因テ獨リ犯所ニ出張シ證人ヲ尋問シ調書ヲ作り假リニ被告人ヲ押ヘシメ最モ至急ヲ要スル底查搜索ヲ簡略ニ爲シ且ツ逮捕ヲ行フコトヲ得犯罪ノ現行ニ非ルトキハ檢察官ノ司法警察ノ職務ヲ全ク異別ニス

治罪法第二十二條ニ曰ク檢事ハ輕罪裁判所及重罪裁判所ノ管轄スル諸罪ノ搜索及起訴ヲ擔當スト
其第二十九條ニ曰ク諸官署、諸官吏或ハ公吏其職務執行中一重罪或ハ輕罪ヲ認知シタル者ハ其犯所管轄裁判所又ハ被告人ノ發見セラレタル地ノ管轄裁判所ノ檢事ニ速ニ之ヲ告知シ事實參考トナル諸事物、調書及

之ニ關係セル書類ヲ此官吏ニ送達ス可キモノトスト
國安又ハ人民ノ生命或ハ財産ニ對スル重キ犯罪ニ限リ此定規ヲ常人ニモ適用スト第三十條ニ記載ス
檢事左ノ犯罪ノ告發ヲ受クルトキハ其身ニ責任ヲ負荷シ控訴院檢事長及司法大臣ノ監督ノ下ニ在テ左ノ一事ヲ爲ス

第一 之ヲ例セハ罪證不充分ナルカ、重キ性質ヲ欠クカ又ハ姦通讒謗或ハ他人所有ノ地、池等ニ於テスル獵漁ニ關スル訴訟等アルモ起訴スヘキ法律上ノ一要素ヲ欠クトキハ此事件ヲ不問ニ附ス
第二 檢事ハ書類ヲ豫審判事ニ送達シテ事實ノ豫審ヲ開始スルコトヲ之ニ請求ス

第三 輕罪裁判所管轄ノ犯罪ナルトキハ直接ニ被告人ヲ裁判所ニ呼出ス

第四 輕罪ナルモ減輕情狀アルニ因リ千八百六十七年十月四日ノ法律ニ從ヒ違警罪裁判所ニ廻付スヘキモノナルトキハ會議局ニ此廻附ヲ命ゼンコトヲ請求ス

事件ヲ夫々ニ始末スルニ先テ檢事ハ證人及被告人ニ就テ調査シテ事實ヲ明ニスルノ權利ヲ有ス
此調査ハ豫審判事以外ノ補佐司法警察官ニ囑托スルコトヲ得、現行犯及准現行犯ノ場合ニ於テ檢事不在ノ時ハ此警察官モ亦法律ニ依リ檢事ニ歸スル豫審職務ヲ執行スルノ權利及義務ヲ有ス

檢事告訴或ハ告發ヲ受理スルコトヲ肯セサルトキ被害者ハ公訴ヲ起スコトヲ得之ヲ詳言スレハ則チ民事原告人トナリテ時宜ニ依リ直接ニ裁判所ニ出テ又ハ豫審判事ノ許ニ出テ、裁定ヲ仰クコトヲ得
檢事ノ職務ハ檢事及檢事補共ニ之ヲ行フ、檢事補ハ檢事ノ監督ヲ受ケテ勤務ス然レトモ其代理者ニ非ス、法律ニ因リ其權限ヲ有ス
其他ノ司法警察官ハ豫審判事ヲ除ク外檢事ノ指揮ヲ受ケテ其職務ヲ執行ス
現行犯、准現行犯並ニ非現行犯ノ場合ニ於テ調書ノ編纂及送達ニ關スル其職務如何ハ既ニ記述セリ、茲ニ附言スルヲ要スル事アリ司法警察官ハ檢事代務ヲ囑托

セラレサル時ハ檢事ノ臨場スルヤ直チニ其職務ヲ輟止スルコト(治罪法第五十條及五十二條)是ナリ
 現行犯ノ場合ヲ除ク外司法警察官ノ職務ハ唯事實參考トナル可キ事物、告發書、報告書ヲ送達スルノミ、是能ク注意ス可キ件ナリトス、法律或ハ判事ノ特別ノ委任狀ヲ受ケサルトキハ豫審ヲ行フヲ得ス、且ツ起訴ヲ爲スヲ得ス、之ヲ要スルニ司法警察官ハ輕罪或ハ重罪ニ係ハル風評、報告、告訴ヲ收集シ直チニ檢事ニ之ヲ送致セシムルノ一任務ヲ以テ司法ノ前派歩哨トシテ配置セラル、モノトス(檢事ハ書類ヲ檢査シ時宜ニ依リ相當ノ處分ヲ命センコトヲ豫審判事ニ請求スルヲ得)、此任務外ニ逸出スルハ治罪法第三十二條、第四十六條、第

四十七條及第四十九條ニ依リ歸著スル權限ヲ超過スルモノトス

第十一章 豫審判事

司法ニ關スル豫審判事ノ職務ハ現行犯及准現行犯ノ場合ニ於テハ前述ノ檢事ノ職務ニ同シ、此場合ニ於テ檢事不在ノ時豫審判事ハ職權ヲ以テ獨リ處分スルコトヲ得

此場合外ニ於テ又ハ此場合ニ於テモ檢事臨場スルトキ豫審判事ハ檢事ヨリ請求ヲ受クルニ非レハ處分ヲ行フコト無シトス
 總ヘテノ場合ニ於テ豫審判事ハ全ク獨立シテ處分ヲ行ヒ其本心ノ指示スル如ク豫審ス、然シ檢察官ノ合式

ノ請求ト符合セサル廉アルトキハ公訴狀ニ答フルニ
決案書テラドナソヲ以テスルヲ義務トス、檢事ハ之ニ對シ故障ヲ
述フルノ權利ヲ有ス
其故障ノ申立書ハ控訴院ニ廻付ス

第十一章 控訴院 控訴院檢事長

控訴院檢事長ハ司法警察官ニ非ス、然シ司法警察ハ其
至高督監ヲ受ケテ其管轄地内ニ於テ之ヲ執行ス、檢事
長ハ司法警察官ニ命令ヲ下スノ權利ヲ有ス、警察官ハ
此命令ヲ執行セサル可カラス、但シ豫審判事ニ對シテ
ハ檢事長ノ權ヲ制限ス、勾引狀、逮捕狀、差押令狀、密室監
禁ノ言渡書ヲ發スルカ如キ司法上ノ處分ニ在テハ豫
審判事ハ其本心ニ思フ所ニ從テ決斷ス、而シテ檢事長

ハ檢事ヲシテ執行セシム可キ請求ヲ爲スノ外ハ他ニ
權利ヲ有セサルモノトス
法律ハ控訴院ヲシテ司法警察ノ至高監督ニ干與セシ
ム、總集會ヲ開キタル控訴院ハ其認知シタル重罪或ハ
輕罪ニ關シ檢事長ヲ招キ起訴ヲ命スルコトヲ得、爾ル
時檢事長ハ此起訴ノ結果ヲ法院ニ報告セサル可カラ
ス

第十二章 懲戒

檢事、檢事長及控訴院長ガ司法警察官ニ對シテ執行ス
ル監督權ノ裁制ハ法律ニ因リ附與セラレタル懲戒權
即チ懲戒處分ヲ命シ或ハ是レカ論旨ヲ爲スノ權内ニ
存在ス

第三編 告訴及告發

告訴トハ自身ニ損害ヲ受ケシメタル諸犯罪ヲ本人ヨリ當該官署ニ訴フルコトヲ云フ

告發トハ他人ニ損害ヲ受ケシメタル諸犯罪ヲ當該官署ニ訴フルコトヲ云フ

告訴ニ在テハ原告人ハ重罪或ハ輕罪ニ因テ損害ヲ被リタル者ナル時ニ非レハ之ヲ受理スルコトヲ得ス

告發ニ在テハ犯罪ヲ目撃シタル者何人ニ限ラス皆之ヲ爲スコトヲ得(治罪法第三十條)

官吏或ハ公吏其職務ヲ行フニ因リ重罪或ハ輕罪アルコトヲ認知シタルトキハ速ニ之ヲ檢事ニ告發シ事實參考ト爲ル可キ事物、調書及關係書類ヲ之ニ送達セサル可カラス

國安妨害又ハ生命或ハ財産ノ加害ヲ現ニ目撃シタル者モ亦速ニ檢事ニ告發ス可キモノトス

第四編 民事原告人

重罪犯人ノ起訴ヲ爲スハ唯檢察官ノミナルヲ原則トスレトモ法律ハ例外ニテ重罪ニ因テ損害ヲ受ケダリトスル者ニハ民事原告人トナリテ訴フルコトヲ許セリ、然シ此訴權即チ重罪ノ損害賠償ヲ要ムルノ權ニハ制限規則アリテ正當ノ限界内ニテ之ヲ使行セシムルモノトス、此訴權ノ使行ヲ許サンニハ犯罪ト損害トノ關係アルヲ要ス、其賠償ハ重罪ニ因テ受ケタル損害ニ

相當スルトキニ非ルヨリハ附帶ノ訴ヲ爲スコトヲ許
 サス
 各被害人民ハ直接ニ違警罪裁判所或ハ輕罪裁判所ニ
 於テ民事原告人トナリ其名ヲ以テ違警罪或ハ輕罪ノ
 被告人ヲ訴フルノ權利ヲ有ス
 凡ソ人民輕罪或ハ違警罪ノ告訴ヲ爲ストキ唯此告訴
 ノミヲ以テ民事原告人トナルコトヲ得ス、法式ニ從ヒ
 告訴狀又ハ附帶ノ訴狀ニ陳述スルトキニ非レハ民事
 原告人ト看做ス可カラズ、原告人ハ二十四時間内ニ其
 告訴ノ願下ヲ爲スコトヲ得(治罪法第八十三條、第七十
 條及第四百四十五條)
 訴訟入費ニ充ツルニ十分ナル金額ヲ書記局ニ寄托シ

タル後ナニ非レハ民事原告人タルコトヲ許サス

第五編 現行犯

現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終ハリタル罪ハ現行犯トス
 犯罪ヨリ間モナク被告人公衆ヨリ追呼セラレ又ハ正
 犯或ハ從犯ト思料ス可キ兇器、器具或ハ書類ヲ携帯ス
 ルヲ發見セラレタル場合ニ於テハ現行犯ト看做ス
 司法警察官戸主ノ求メニ因リ又ハ戶外ニ洩ル、呼聲
 ニ因リ出張スル場合ハ現行犯ニ准ス(治罪法第四十六
 條)

第六編 現行犯ノ場合ニ於テ豫審ノ開始

輕罪或ハ重罪ノアリタルトキハ可成的速ニ第一著ノ事實檢證ヲ爲スナ緊要ナリトス
 司法警察官重罪或ハ輕罪アルコトヲ認知シタルトキハ何事ヲモ攔キテ即刻犯所ニ出張シ事實重大ナル時ハ調書ヲ作ルノ時間ヲ費ヤスコト無ク直チニ使者或ハ電報ヲ以テ之ヲ檢事ニ告知スルヲ要ス
 又司法警察官ハ直チニ嚴密ニ注意シ現場ノ模様ヲ毫モ傍觀者ノ爲メニ蹂躪セラレサル様ニ處置ス可シ、何トナレハ犯所ノ模様ヲ最モ確實ニ檢證スルノ便利ヲ檢事ニ得セシムルコト必要ナルヲ以テナリ
 總ヘテ刑事訴訟ノ基礎根本ハ重罪或ハ輕罪ノ痕跡ヲ檢證スル所ノ調書ナリトス

司法警察官ハ是非調書ヲ作ラサルヲ得ス、殊ニ罪證ヲ得ル能ハサル事又ハ犯人ノ知レサル事ヲ以テ口實トシテ調書ヲ作ルコトヲ免ル、ヲ得ス、何トナレハ現時ニ欠ケル罪證ヲ其後ニ得ルコトアリ又他日被告人ヲ發見スルコトアルヲ以テナリ
 調書ハ反證ノ擧ガルマテハ官吏ヲ檢證シタル諸事實ヲ實正ナルモノトス即チ證據ヲ欠クトキ判事ハ調書ニ因リテ被告人ヲ罰スルコトヲ得

第七編 迅速ナルヲ必要トスル事

迅速ナルヲ必要缺ク可カラストス、如何トナレハ眞實ノ事情ノ表顯スルハ犯時又ハ犯後瞬間ノ時機ナルヲ

以テナリ、爾ル時其遺セル痕跡ハ其原因ヲ争フ能ハサルカ如クニ最モ明白ナラシムルノミナラス證人モ亦誠實ノ事ヲ陳述スルニ躊躇セサルナリ、若シ速ニ檢證セサリセハ事實ヲ隱蔽スルカ然ラサレハ多少緊要ナル情况ヲ變更シテ之ヲ減少スルノ恐レアル可シ將ニ逮捕ニ就カントスル混雜ノ際ニ俄ニ被告人訊問ヲ受クルトキハ司法權ニ抵抗シ更ニ辨護策ヲ運ラシ又ハ從犯ト協議スルノ能力モ時間モ無シトス司法警察官事實ノ檢證ヲ怠リ又ハ檢證シナカラ須要ノ證憑ヲ收集スルコトヲ爲サ、ル時ハ其不爲ハ概子償フ能ハサルモノトス故ニ延滞ナク告發人或ハ告訴人、證人、被告人ヲ尋問セ

サル可ガラス而シテ未タ初次ノ底查ヲ遂ケスシテ立去ル可カラス

第八編 第一著ノ搜查ヲ行フ方法

前既ニ言ヘルカ如ク搜查ノ神速ナルハ最モ要益アリトス、少シク遅延スルモ罪證ヲ湮滅スルコト往々ニシテ之レアレハナリ重罪或ハ輕罪ノ痕跡ハ速ニ消ヘ易クシテ直チニ遺漏ナク之ヲ檢證スル能ハサルトキハ臨機ノ處分ヲ施ササル可カラス、時宜ニ依テハ番人一名ヲ現場ニ置クヲ要ス

場所ノ模様ヲ記シ重罪ヲ犯サレタル場所或ハ家屋ハ

他ノ人家ト遠隔スルヤ、非常ノ音響或ハ呼聲ノ戶外ニ洩レタルヤ、甲所ニ於テ攻撃セラレタル被害者ハ乙所ニ於テ死亡シタルヤヲ示シ而シテ途中ニ存セル痕跡ヲ追捜スルコト緊要ナリトス

此種々ノ場合ニ於テ現場ヲ審明ニシ主従ノ事實ヲ明白ニスルカ爲メニ圖ヲ作ルヲ必要欠ク可カラストス、又犯所ノ傍ヲニ於テ發見シタル足跡ノ形狀、寸法ヲ取り、被告人逮捕ニ就キタルトキハ直チニ其靴ト足跡トヲ對照スルコトヲ忘ル可カラス

重罪或ハ輕罪ヲ犯ス爲メニ使用シタル或ハ使用ス可キ兇器、器具、其他ノ物件、被告人ノ捨テ或ハ忘レタル物件、犯罪ヨリ得タル物件又ハ事實ヲ明ニスルニ要用ナル物件ヲ差押ヘサル可カラス(治罪法第三十五條)

ル物件ヲ差押ヘサル可カラス(治罪法第三十五條)

被害者未タ告訴セサルトキ又ハ新ニ説明ス可キ事柄アルトキハ之ヲ尋問シ犯罪ノ場所ニ居合ハセタル人ニシテ事實參考トナル可キ事物ヲ有スル者ノ陳述ヲ聽キ藝術或ハ職業ニ依リ事實及情狀ノ性質ヲ鑒定シ得ル者ヲ召喚セサル可カラス

時刻ヲ記載スルコトモ亦必要ナリトス、何トナレハ時刻ハ有罪或ハ無罪ノ證據トナルコト往々ニシテ之レアレハナリ

調書ヲ編纂シ終ハルマテハ何人ト雖モ戶外ニ出テ又ハ場所ヲ去ルコトヲ禁ス可シ、此禁制ヲ犯ス者ハ直チニ之ヲ逮捕シ監獄ニ入レシム可シ之ニ對シ刑ヲ言渡

スコト無ク速ニ檢事ニ報告ス可シ(治罪法第三十四條)
 此豫防處分ヲ爲スハ他ナシ此者ノ輕卒又ハ故意ニ依
 リ秘事ヲ洩ラスノ恐レアレハナリ
 重罪或ハ輕罪ヲ犯シタル時ニ被告人ヲ逮捕セサリシ
 ト雖モ其人ヲ知り且ツ其所在判然ニ知レタルトキハ
 之ヲ出庭セシメ、犯罪前後及犯罪中ノ時間ノ輕過及犯
 罪ノ情狀ニ關シテ之ヲ訊問シ速ニ其返答ヲ確メ、必要
 アルトキハ原告人、證人或ハ其他ノ被告人ト之ヲ對質
 ス可シ之ヲ逮捕スル時ハ犯罪ニ關係アリ又ハ關係ノ
 疑ヒアル兇器、器具、被服或ハ書類ヲ差押ヘサル可カラ
 ス(治罪法第三十五條及第四十條)
 猥褻或ハ強姦ノ罪ニ關シテ審査セントスル時ハ強姦

ノ有無ヲ認定スル爲メ直チニ犯人ト思料セラレタル
 者及被害者ノ襦袢、寢衣等ヲ差押ヘサル可カラス、故殺
 謀殺、重傷ナル時モ亦被害者及加害者ノ被服ヲ差押ヘ
 可シ
 火災ノ場合ニ於テ被告人ヲ檢査シ燒痕アル衣服ヲ著
 用シ又ハ燃質物ヲ携帯スルトキハ之ヲ差押ヘ可シ
 檢事ノ補佐タル司法警察官ハ現行犯或ハ准現行犯ノ
 場合ニ於テ又ハ豫審判事ヨリ委任ヲ受ケタルトキハ
 被告人ノ家宅、其妾宅、其腹心者從犯隱匿者、其隱遁所、旅
 館、酒店、其他公衆ノ爲メニ設ケタル家屋内ニ入ル可シ、
 然シ犯罪ニ關係アル物件他所ニ收藏シアルコトヲ認
 知シタルトキハ即時檢事ニ此由ヲ傳告シ其決定ヲ俟

テ搜索ニ從事ス可シ、總ヘテノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ其面前ニ於テ若クハ被告人出席スルコトヲ欲セス又ハ出席スル能ハサルトキハ其代人ノ面前ニ於テ搜索ヲ行フ可シ

代人無キ時ハ證人二名立會スルヲ必要欠ク可カラストス(治罪法第三十六條、第三十七條、第三十八條、第三十九條及第四十條)

犯所ニ於テ又ハ搜索ノ時ニ差押ヘタル物件ハ被告人ニ示シテ之ヲ認識スルヤ否ヤヲ問ハサル可カラス、時宜ニ依テハ之ニ認印ヲ捺サシムルコトアルヘシ、拒絶スル場合ニ於テハ其旨ヲ記載ス可シ
又被告人ハ曾テ兵器ヲ携帯スルノ許可ヲ得タルヤ否

ヤ又ハ其職業ニ依リ兵器或ハ其他ノ器具ヲ帶フルノ權利或ハ習慣ヲ有セシヤヲ查問スルコト肝要ナリトス、其所持又ハ其使用ニ關シテ被告人ニ辨明セシメ此所持又ハ使用ニ就キ陳述シ得可キ人若クハ犯罪ヨリ少シク前ニ唯其所持スルヲ見タルノミナル者ト雖モ之ヲ召喚シ訊問セサル可カラス、被告人ヲシテ調書ニ署名セシメ或ハ署名スルコトヲ肯セサルトキハ其理由ヲ記載スルコトモ亦肝要ナリトス(治罪法第三十五條)

司法警察官ハ臨場シタル憲兵又ハ逮捕ニ與リタル憲兵及其餘ノ人ニ就テ被告人ノ逮捕ノ時、犯所ニ於テ又ハ其護送中又ハ之ヲ警察官ノ許ニ引致スル時間中被

告人ノ自白或ハ疑ハシキ言詞ヲ集收シ又其面會ヲ請ヒタル人ト被告人トノ交際ノ親否ヲ急速ニ吟味シ又ハ盜犯ノ場合ニ於テハ其所持セル物品ノ出所ノ正當ナルヤ否ヤヲ檢査シ證據物件或ハ疑ハシキ物品ヲ投棄シ或ハ破毀セサル様ニ注意シ何人トモ交通セシム可カラス此外被告人ノ利益或ハ不利益トナル諸情狀ヲ明細ニ檢證セサル可カラス然シ此情狀ヲ豫見シテ茲ニ之ヲ列舉スルコトハ到底爲シ能ハストス可成の被害者、被告人、證人、憲兵及鑒定人ノ所在ノ能ク知レ容易ニ之ヲ召喚シ得ルカ爲メ其氏名、年齢、職業、住所ヲ筆記シ、搜索ヲ容易ニシ且ツ將來被告人ヲ認識スルニ最モ便利ナルカ爲メニ告訴人、告發人及證人ヲシ

テ未捕被告人ノ人相及其著服ノ模様ヲ訴訟書ニ記載セシメ、重罪ヲ犯スコトニ決セシメタル情慾或ハ利益ニ係ハル證據、事實參考ト爲ル可キ事物ヲ收集セサル可カラス是レ等ノ件ハ可成の被問者ノ言語ノマ、ヲ寫シ常ニ鑒定人ノ術語ヲ用ヒテ順序正シク明且ツ密ニ記述スルル要ス

第九編 無私公平ナルヲ要スル事

此諸處分中司法警察官及憲兵ノ體認ス可キ第一ノ要件ハ無私公平ナル事是レナリ、如何ナル場合ニ於テモ被告人ノ利益不利益ニ拘ハラス諸件ヲ收集ス可キコトヲ決シテ忘ル可カラス、抑社會ハ重罪ノ搜查ニ全力

ヲ用フルノ義務ヲ吾人ニ課スルコト重シ、然レトモ無罪ヲ發見シ不正ノ公訴ヲ防クニ諸種ノ手段ヲ用フルノ義務ヲ吾人ニ課スルハ尙ホ最モ重シトス

第十編 豫審中實行ス可キ緊要ノ法式

第一章 臨場

補佐司法警察官ハ犯所ニ出張スルトキ警部或ハ之ヲ欠クトキハ區長又ハ助役或ハ此二官共ニ不在ノ場合ニ於テハ區内ニ居住スル人民二人ヲ立會セシム可シ、證人ノ立會ヲ得ル能ハサルトキハ其立會無ク調書ヲ作り其旨ヲ附記ス可シ(治罪法第四十二條)

現行犯或ハ准現行犯ノ場合又ハ搜索、逮捕或ハ訊問ノ

時ニ非レハ此法式ヲ履行セス、然シ唯事實參考ト爲ル可キ事物ヲ檢事ニ送附スルカ爲メニ之ヲ收集スルノミナル時ハ證人ノ立會ヲ要セス獨リ處分ス可シ、檢事ノ補佐タル司法警察官ハ現行犯ノ場合ニ於テ臨場シ處分ヲ開始スルニ先チ其臨檢ノ理由及主意ヲ明記スル臨場書ヲ作ル可カラス、唯治罪法第四十九條ニ依リ處分シタルコトヲ豫審調書ニ記スルノミヲ以テ足ルトス

第二章 書記ノ立會

檢事及其補佐ハ現行犯及准現行犯ノ場合ニ於テ書記一名ヲ使用スルコトヲ得、然シ法律上ニ於テ必シモ之ヲ使用スヘキノ定規無キニ因リ裁判費用ノ無益ニ増

加セサル爲メ書記ノ立會ヲ省クコト往々ニシテアリ
 豫審判事ハ書記ヲ立會セシメサルコトヲ得ス、此件ハ
 治罪法第七十二條及其以下數條ニ之ヲ規定ス、書記ハ
 諸訴訟書類ノ每頁ニ署名シ諸法式ヲ履行セサル可カ
 ラス(治罪法第七十六條及第七十七條)
 檢事或ハ其補佐ハ書記或ハ雇書記ヲ隨行セシムルヲ
 必要ナリト認メタルトキハ豫メ正實ニ能ク其職務ヲ
 行フ可キコトヲ之ニ宣誓セシメ此旨ヲ調書ニ記載ス
 可シ(治罪法第四十四條)
 憲兵將校ハ憲兵卒ニ此職務ヲ委任スルコトヲ得
第三章 犯罪檢證調書
 重罪或ハ輕罪ヲ檢證ス可キ調書ハ警部又ハ區長或ハ

助役又ハ此ニ官ノ立會ヲ得ル能ハサルトキハ同區居
 住人民三名ノ面前且ツ被告人ノ知レテ逮捕ニ就キタ
 ルトキハ其面前又ハ被告人其場ニ臨ムコトヲ肯セサ
 ルカ或ハ之ヲ臨マシムル能ハサルトキハ其撰ミタル
 代人ノ面前ニ於テ之ヲ作ル可シ、司法警察官ハ治罪法
 第四十九條ニ依リ處分スルコトヲ記載セサル可カラ
 ス、官吏或ハ立會ヲ要メラレタル區内居住人民、原被告
 其場ニ居合ハシタル者及處分スル警察官此調書ノ每
 葉ニ署名ス可シ、署名スルコトヲ肯セサル者又ハ署名
 スル能ハサル者アルトキハ其事由ヲ附記ス可シ、欄外
 ノ記入アルトキハ之ニ認印ス可シ、認印ノ無キ欄外ノ
 記入、削除及挿入ハ取消シタルモノト看做ス、告訴告發

ニ必要トセル法式ハ之ヲ遵守セサル可カラス(治罪法第七十八條)

第四章 被告人ノ訊問

被告人ハ逮捕後直チニ之ヲ訊問セサル可カラス
被告人ハ其身ヲ束縛セラレ、コト無シト雖モ唯逃走
ヲ防クカ爲メ守衛ニ伴ハレテ出庭ス、被告人數人アル
トキ各別ニ呼出シテ訊問ス可シ、助言者ノ補助ヲ受ク
ルヲ許サス、司法警察官ハ其氏名、年齢、産所、職業住所ヲ
尋問シ而シテ被告事件ヲ之ニ告知シ其返答ヲ收集ス
可シ、未ダ證據ノ擧カラサル主從ノ事實ニ關シ被告人
ヲ勸誘シ之ヲ錯誤ニ陥ルコトヲ許サス、然シ既ニ豫審
ニテ收集シ得タル證據ヲ悉ク洩露セスシテ嫌疑ノ掛

リタルコトヲ被告人ニ言聽セルコトヲ得、又誘惑ス可
キ疑問若クハ曖昧ナル疑問ヲ避クルヲ肝要ナリトス、
何トナレハ此疑問ハ意外ノ陳述ヲ以テ白狀ト看做ス
ニ至ラシムルヲ以テナリ

司法警察官ハ白狀ヲ得ルカ爲メ勸告諫言ヲ爲スコト
ヲ得、然シ此目的ノ爲メニ脅迫或ハ暴行ヲ行ヒ又ハ特
典或ハ減刑ヲ約束スルコトヲ得ス

被告人白狀ヲ爲シ而シテ其指名セル從犯未ダ逮捕ニ
就カサルトキハ被告人ヲシテ從犯ノ人相及其著服ヲ
陳述セシメ之ヲ訊問書ニ記入セシム可シ
訊問ハ別帳ニ記録セシメサル可カラズ、何トナレハ證
人ノ陳述書陪審官ニ交附スルハ法律ノ禁スル所ナル

ニ因リ他ノ書類ト離別スルヲ要スレハナリ
訊問書ハ被告人ニ讀聽セ之ニ署名セシム可シ、又被告
人ヲシテ警察官及證人ト共ニ每葉ニ署名セシム、削除
ノ部分アラハ之ニ署名認印セシム可シ、若シ署名スル
能ハサルカ又ハ署名ヲ肯セサル者アルトキハ其事由
ヲ附記ス可シ

第五章 通事

被告人或ハ證人佛蘭西語或ハフランス語或ハ獨逸
語ニ通セサルトキハ通事ヲ命スルヲ必要ナリトス
通事ハ正直ノ人ナルヲ要ス、正實ヲ隱蔽スルノ手段ヲ
被告人及證人ニ勸誘スルコトヲ禁ス
通事ハ二十一歳以上ノ者トシ其職務ニ就クニ先テ履

行ス可キ法式ハ正實ニ通譯ス可キノ宣誓ヲ爲スコト
ナリトス、此法式ヲ履行セサルトキハ通譯ノ効ナシト
ス(治罪法第三百三十三條)
證人、判事及陪審官ハ通事トナルコトハ法典ノ許サ、
ル所ナリ

第六章 證人ノ訊問

證人ハ被告人ノ在ラサル所ニ於テ宣誓セシムルコト
無ク(其宣誓ハ唯豫審判事ノ面前及法庭於テスルノミ)
逐次各別ニ訊問ス可シ(治罪法第七十三條)證人ハ豫メ
其氏名、年齢、職業及住所ヲ告ケ而シテ原被告ノ婢僕人
或ハ何等親ノ血族或ハ姻族ナルヤヲ陳述ス可シ、被告
人ノ尊屬或ハ卑屬、其兄弟姉妹、其配偶者ノ姉妹兄弟、其

妻或ハ夫ハ決シテ證人トシテ之ヲ召喚セス且ツ之ヨリ證言ヲ受クルコト無シトス(治罪法第一百五十六條及第三百三十二條)

證人ノ訊問ハ問答ヲ以テ之ヲ爲サス、司法警察官ハ證人ニ對シ其氏名、年齢、職業及住所ヲ問ヒタル後、其知ル所ヲ云ハシメ自由ニ説明セシメサル可カラズ、若シ然ラズシテ疑問ヲ掛ケタランニハ識ラス知ラス意外ノ件ヲ開陳シ隨意陳述ニ非ル他ノ結果ヲ生スルナラシ、然レトモ司法警察官ハ證人ヲシテ事實參考トナル可キ件々ヲ明細ニ言ハシメ如何シテ主タル事實及其情狀ヲ知リタルヤ犯罪ノ時ニ能ク見聞スルニ便利ナル所ニ在リシヤヲ説明セシメ而シテ錯誤セル點アラ

ハ注意セシメ明白ノ陳述ヲ求ム可シ
證人ノ陳述ハ調書、告訴、告發及訊問ト別ナル紙上ニ錄取シ每葉ニ署名ス可シ、削除及欄外ノ記入アルトキハ特別ニ認印セサル可カラズ、其陳述ハ證人ニ讀聽セ其署名前ニ相違ノ廉ナキヤヲ陳述セシメサル可カラズ(治罪法第七十六條)證人署名スル能ハサルトキ又ハ署名スルヲ肯セサルトキ其事由ヲ記載ス可シ、然シテ後、司法警察官及出席證人署名ヌ
補佐警察官現行犯ノ場合ニ於テ訊問ス可キ證人ハ執達吏ヲシテ之ヲ呼出サシムルヲ要セス、無費ニテ作レル簡單ノ通知書ヲ公吏ノ送達スルノミヲ以テ足ルトス、此通知書ヲ受ケタル者ハ出頭入費ヲ受クルノ權利

ヲ有ス
 證人此通書ニ從ヒ出頭セサルトキハ其旨ヲ豫審判事
 ニ報告スヘシ、判事適當ナリト認ムルトキハ此證人ヲ
 召喚セシム而シテ證人召喚ニ應セサル場合ニ於テ檢
 事ノ請求ニ依リ之ヲ禁錮シ百フラン以下ノ罰金ヲ之
 ニ科ス可シ(治罪法第八十條)
 豫審判事ハ頑抗證人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得
 (治罪法第九十二條)
 簡單ノ通知書ヲ以テ豫審判事或ハ其委任ヲ受ケタル
 治安裁判官ノ許ニ呼出サレタル證人等ハ請求スルト
 キハ其出頭入費ヲ請取ルコトヲ得、此入費ハ其呼出ニ
 應シタルカ爲メニ受ケタル損害ノ正當ノ補償ナリト

ス
 此補償金ヲ受取ル可キ手續ハ本來ノ召喚ノ時ト同一
 ナリトス、召喚狀ノ謄本ヲ示ヌニ代ヘテ證人ハ通知書
 又ハ口述通知ナルトキハ警察官ノ保證書ヲ差出ス可
 シ、此終リノ場合ニ於テハ此ノ保證書ノ下部ニ金額ヲ
 記載ス

第七章 證據物件

搜索シテ物件ヲ差押ヘタルトキハ被告人ノ利益ナル
 モノト不利益ナルモノトヲ論セス此物件ノ相違ナキ
 ナ確ムルカ爲メ被告人或ハ其代人ニ示スヘシ處分及
 搜索ノ場ニ現在スルトキハ催促シテ此物件ヲ認識セ
 シメ之ニ署名セシム可シ、若シ認識シ署名スルコトヲ

肯セサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ(治罪法第三十九條)

犯罪ヲ檢證シ物件ヲ差押ヘタル時被告人不在ナルニ因リ差押物件ニ附スル帶紙上ニ署名シ認印スル能ハサリシトキハ事實訊問ノ時之ヲ被告人ニ示シ之ヲ認識シタル後ヲ催促シテ被告人ニ署名セシム可シ
差押物件ハ印緘ス可シ、印緘スル能ハサルモノナルトキハ司法警察官之ヲ器或ハ囊中ニ入レ之ニ紙帶ヲ附シ其印ヲ捺ス可シ、而シテ被告人希望スルトキハ捺印ス可シ、物品ノ廣容甚タ大ナルニ因リ直チニ之ヲ運搬スル能ハサルトキハ宣誓シタル番人一人ニ之ヲ監視セシムルコトヲ得、被告人或ハ其代人ヲシテ此等ノ處

分ヲ證明スル書即チ前記ノ法式ヲ履行シタルコトヲ精密ニ記載スル諸書類ニ署名捺印セシム可シ、偽造ノ場合ニ於テハ偽造ノ訴ヘアリタル物件及比較物件即チ偽造者ヲ發見スル爲メ偽物ト比較スルニ必要ナル物件ハ告發人、告訴人、被告人、證人及鑒定人ニ示シ是レ等ノ者ハ之ヲ辨解ス可シ、此諸人及警察官ハ右ニ關スル書類ノ每頁ニ署名シ認印ス可シ、署名スルヲ肯セサル者アルトキハ常ニ其事由ヲ證明スヘシ(治罪法第三十八條)

訴訟書類及被告人ノ利益或ハ不利益トナル證據物件ハ輕罪或ハ重罪被告人ノ引致ヲ擔任スル憲兵之ヲ持參ス、然シ重量重キカ又ハ廣容大ヒナルニ因リ憲兵之

ヲ運フ能ハリシトキハ司法警察官ノ命令書ニ從ヒ馬車又ハ鐵道又ハ其他最モ便宜ナル方法ヲ以テ之ヲ運送セシム可シ但物件ノ安著ノ爲メニ適良ナル方法ヲ執行スルモノトス(千八百五十三年六月十八日ノ勅令第十四條)此方法トハ運輸令狀(入費辨償ノ爲メニ作レル備忘録三副ヘルヲ例トス)中ニ運輸スヘキ物品ノ重量及此物品ノ届先ニ著スヘキ日ヲ記載スルコトナリトス、是レ一頭或ハ數頭曳ノ馬車ヲ要スルヤ若クハ駄馬一頭ニテ足ルヤヲ容易ニ請負人ニ知ラシメ得ルカ爲メナリ且ツ此物品ヲ送ル可キ時請負人囚徒ヲ運搬セサルニトナ知ルトキハ所謂物品ヲ即時ニ車上ニ置クヲ得ルノ便利アリトス

第八章 鑒定人ノ報告

特別ノ學術ニ依リ重罪及輕罪ノ性質及情狀ヲ判定スルカ爲メニ召喚セラレタル者即チ屍或ハ被害者ノ創傷ノ模様ヲ檢證ス可キコトヲ命セラレタル醫者等ハ本心ニ思フ如クニ報告ス可キコトヲ司法警察官ニ對シ宜誓シタル後チニ非レハ檢證ニ著手スルコトヲ得ス(治罪法第四十四條)抑モ法律ニ於テ檢證ノ結果ヲ稱スルニ報告ナル語ヲ用ヒタルハ技術者決シテ特別ノ調書ヲ作ル可カラサルコトヲ示シタルニ外ナラストス、技術者ノ檢査ハ事實及事實ノ情狀ヲ精密ニ檢證スルヲ主トスル總處分ノ一部タルニ過キサレハナリ、因テ此檢査ハ司法警察官ノ作レル調書中ニ之ヲ記載セ

サル可カラス、是レ嚴正ニ遵守ス可キ規則ナリトス、法律ニ規定セル此方法ハ起訴ノ諸元素ヲ一書中ニ收集スルノ利アリ、必要ナキニ訴訟書類ヲ増加スルコトハ務メテ之ヲ避けサル可カラス、然シ技術者ノ處分久シキニ涉ルコト往々アリ、技術者(必要アル時ハ技術者二人ヲ召喚スルコトヲ法律ニ於テ司法警察官ニ許ルス)ノ間ニ異論起リ是レカ爲メニ甚タシク遅延シ異別或ハ反對ノ報告ヲ生シ司法警察官ハ他ノ地點ニ出張スルヲ要スルコトアリ、爾ルトキ警察官ノ不在中各別ニ作りタル調書ハ法律ニ於テ警察官ニ對シテ爲スヲ要スル宣誓濟ミノ旨ヲ此書ニ明記スル時ハ違法ノ書ト看做スヲ得ス、此場合ニ於テ技

術者ノ特別報告ヲ司法警察官ノ調書中ニ挿入スルトキハ之ヲ無効トナスコトヲ得ス

第十一編 家宅搜索

家宅搜索ハ事實ヲ發見スルニ最良ノ一手段ナリトス、現行犯ノ場合ニ於テ戸主ノ拒マサルトキ常ニ家宅搜索ヲ爲スコトヲ得、現行犯ノ場合ニ非スシテ戸主ノ拒ムトキハ豫審判事ノ委任狀アルニ非レハ家宅搜索ヲ行フコトヲ得ス、現行犯ノ場合ニ在テモ叨リニ家宅搜索ヲ行フ可カラス、其之ヲ行フニ大ニ謹慎ヲ加ヘスンハアラス人民ニ對シ此過激處分ヲ取ルハ重大ノ證憑アル時ニ限ルモノ

トス
 家宅搜索ヲ爲サントスルトキ司法警察官ハ常ニ警部
 區長或ハ區内居住ノ人民二人ヲ立會セシム可シ
 家宅搜索ハ日中即チ十月一日ヨリ三月三十一日マテ
 ハ午前六時ト午後六時トノ間又四月一日ヨリ九月三
 十日マテハ午前四時ト午後九時トノ間ニ之ヲ行ハサ
 ル可カラヌ(民事訴訟法第千二十七條)
 日中ニ始メタル家宅搜索ハ夜中之ヲ繼續スルコトヲ
 得、戸主ノ拒マサルトキハ夜中家宅搜索ヲ始ムルヲ得

第十二編 身體検査

檢事ノ補佐タル司法警察官ハ現行犯ノ場合ニ非レハ

決シテ身體検査ヲ行ヒ或ハ行ハシムルコトヲ得ス
 現行犯ノ場合外ニ於テハ身體検査ヲ命スルコトヲ得
 ス、但シ重罪公訴局又ハ重罪或ハ輕罪ノ件ヲ受理シタ
 ル法衙ノ之ヲ命スルハ格別ナリトス
 總ヘテノ場合ニ於テ被告人ハ其撰ミタル醫者一人ヲ
 自費ニテ身體検査ニ立會セシムルコトヲ得(千八百七
 十四年八月二十日ノ法律第二十五條)女性或ハ司法警
 察官ノ指名セル醫員ヨリ外ノ者ヲシテ婦人ノ身體ヲ
 検査セシム可カラヌ
 司法警察官ハ已ムヲ得サル必要アル場合ニ非レハ身
 體検査ヲ行フ可カラヌ、是レ宜シク注意ス可シ、速ニ檢
 査ヲ要スル時ヲ除ク外豫メ檢事或ハ豫審判事ニ申告

スルヲ要ス

七十八

第十三編 訴訟書類ノ送達

司法警察官第一著ノ豫審ヲ終結シタル時ハ諸書類ヲ
檢事ニ送致ス可シ、檢事ハ直チニ書類ヲ檢閱シ之ニ相
當スル手續ヲ爲サル可カラス
諸書類ヲ檢事ニ送達シタル以上ハ證人ヲ訊問スルコ
トヲ警察官ニ許サス、何トナレハ檢事該件ヲ受理スル
ヤ即時ニ警察官ノ職務ハ止ムヲ以テナリ、然シ其後チ
陳述ノ爲メニ來ル者アレハ警察官之ヲ收集シ速ニ之
ヲ事實參考トナルヘキ事物トシテ檢事ニ送達ス可シ

第十四編 現行犯ノ場合外ニ於ケル逮捕

現行犯ノ場合ニ於テ諸司法警察官ハ如何ナル方法規
則ニ依リ被告人ヲ逮捕シ得ルヤハ次編ニ之ヲ説示セ
ン
現行犯ニ非ルトキハ豫審判事ノ合法ノ勾引狀或ハ逮
捕狀又ハ控訴院ノ會議局或ハ公訴局ノ令狀又ハ法律
ニ依リ訴訟ノ執行ヲ控訴院長或ハ判事ノ擔任スル場
合ニ於テハ此法官ノ發シタル勾引狀或ハ逮捕狀ヲ携
帶セサレハ何人ト雖モ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得ス
事實ハ三ヶ月ノ禁錮或ハ是レヨリ重キ刑ニ當ルヘキ
性質ナキトキハ被告人ヲ拘留スルコトヲ得ス
事實ハ三ヶ月ノ禁錮或ハ是レヨリ重キ刑ニ當ル可キ

七十九

性質ナルトキ豫審判事ハ逮捕狀ヲ以テ被告人ヲ拘留スルコトヲ得(然シ必シモ斯クセサルヲ得サルコト無シトス)但被告人白耳義國內ニ住所ヲ有スル時判事ハ非常ニ重キ情狀アリテ公安ノ爲メニ必要ナル場合ニ非レハ逮捕狀ヲ發スルコトヲ得ス

事實ハ十五年以上二十年以下ノ徒刑或ハ是レヨリ重キ刑ニ當ル時豫審判事ハ逮捕狀ヲ發ス可シ、檢事ノ意見ニ從フ場合ヲ除ク外被告人ノ身ヲ自由ニナシ置クコトヲ得ス(千八百七十四年四月二十日ノ法律)

之ヲ約言スルニ重大ノ事實アル被告人ノ外拘留スルコトヲ得ス、但シ非常ノ情狀アルトキ又ハ公安ニ妨害アルトキハ此限ニ在ラス

騒動、同盟罷工ノ場合又ハ既ニ處刑ヲ受ケタル者ニシテ危険ノ恐レアル場合、重罪或ハ輕罪ノ犯者多數アル場合又ハ被告人ハ其被告重罪或ハ輕重ヲ繼續シテ犯スヘキノ恐レアル場合(之ヲ例セハ子ニ姦通シタル父ノ如シ)又ハ被告人其證人ニ賄賂ヲ贈リ或ハ之ヲ恐怖スルノ恐レアル場合ニ於テハ公安上ノ利益ノ爲メニ拘留スルヲ必要トス

第十五編 現行犯ノ場合ニ於テ逮捕

現行犯及准現行犯ノ場合ニ於テ豫審ノ結果ニ依リ被告人ニ對スル重大ノ證據ノ存在スルトキ司法警察官ハ勾引狀ヲ發スルコトヲ得(治罪法第四十條)

此證憑ノ輕重ヲ判定スルハ司法警察官ノ職分ナリト
ス、左ノ三情狀ヲ備具スルニ非レハ司法警察官ハ勾引
狀ヲ發ス可カラス

第一 現行犯ナル事

第二 其事實ハ一ノ刑ニ處セラル可キ性質ヲ有ス

第三 被告

被告ハ一ノ刑ニ處セラル可キ性質ヲ有ス
第三 被告人ニ對スル重大ノ證憑ノ存在スル事
唯告發ノミヲ以テ十分ノ思料トス可カラス
憲兵條例ニ據レハ此兵科ノ下士ハ未タ司法警察官ニ
非スト雖モ前同様ノ情狀ニ於テ逮捕ヲ命シ又ハ之ヲ
執行スルノ權利ヲ有ス、浮浪ノ徒ハ之ヲ拘捕セサル可
カラス(千八百十五年一月三十日ノ法律)

被告人ノ家宅ハ司法警察官ノ管轄地外ニ在ルトキハ
茲ニ臨檢スルコトヲ得ス、唯檢事ニ之ヲ報告スルノミ
被告人不在ナル時勾引狀ハ被告人ヲ豫審判事或ハ檢
事ノ許ニ引致ス可キノ命令ヲ含有スルヲ要ス、是レ其
逮捕ノ時現場ノ司法豫審ヲ終リタル場合ニ於テハ現
行犯後ノ豫審ヲ繼續スルコトヲ法律ニ於テ補佐警察
官ニ許サ、ルヲ以テナリ(治罪法第四十七條)

檢事ノ補佐警察官ノ命令ニ依テ逮捕シタル被告人ハ
常ニ成ルタケ速ニ馬車ニテ此檢事ノ許ニ之ヲ引致ス
可シ、檢事ハ之ヲ放免ス可キヤ又ハ豫審判事ニ訊問ヲ
請求シ逮捕狀ヲ發スヘキヤヲ決定ス、此訊問ハ常ニ逮
捕ノ時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ執行セサル可カラ

ス然ル能ハサルトキ被告人ヲ解放シ過失ノ警察官ハ
重大ノ責任ヲ負荷ス可シ

第十六編 囑托

囑托トハ一法官カ他ノ法官或ハ司法警察官ニ豫審ノ
代理ヲ命シ或ハ請求スルコトアリ
宣誓濟ミシ證人ノ陳述ヲ受クルカ爲メ豫審判事ハ唯
其管内ノ治安裁判官ニ囑托スルヲ得ルノミ(治罪法第
八十三條及第八十四條)
其他ノ司法警察官ニ囑托スルトキ此警察官ハ宣誓ノ
式ヲク唯參考ノ名義ニテ證人ヲ訊問ス
搜索及書類ノ差押ヲ行フ爲メ豫審判事ハ管内ノ治安

裁判官區長或ハ警部ニ囑托スルコトヲ得
此囑托ハ理由ヲ具シタル命令書ヲ以テ之ヲ爲スモノ
トス、但シ其之ヲ爲スハ緊急ノ場合ニ限ルトス
囑托ノ囑托ヲ爲スヲ禁ス、之ヲ例セハ判事ヨリ囑托ヲ
受ケタル警部ハ警部補ヲシテ代理セシムルコトヲ得
ス(千八百七十四年四月二十日ノ法律第二十四條)

第十七編 司法警察官ヲ尊敬ス可キ事

司法警察官ハ擾亂者ヲ豫審ノ場所ヨリ逐ヒ拂ハシム、
若シ此命令ニ抗シ又歸來スルトキハ之ヲ逮捕セシメ
監獄ニ引致セシメ二十四時間留置セシム、獄丁ハ司法
警察官ノ命令書ニ從ヒ之ヲ受ケサルヲ得ス(治罪法第

五百四條)而シテ檢事ニ送致ス可キ調書ヲ作ル可シ

第十八編 檢事ノ臨檢ノ場合ニ於テ其ノ

補佐司法警察官ノ特別ノ職務

電報ヲ以テ重罪或ハ輕罪ヲ檢事ニ通知シタル補佐司法警察官ハ豫審判事ト共ニ臨檢ストノ返信ヲ受ケタル時其第一ノ職務ハ前既ニ云ヘルカ如ク現場ノ模様ヲ其儘ニ存スル様專ラ注意スルユトナリトス且ツ此法官臨場後直チニ處分ヲ開始シ能ク之ヲ遂ケ得ルニ必要ナル準備ヲ無シ訊問ス可キ證人ヲ召集シ死體解剖檢査ヲ行フ可キト認メタルトキ便宜ナル場所ヲ整理シ而シテ此處分終テ即時ニ死屍ヲ納ムヘキ棺ヲ用

意スルノ必要ナルコトヲ區役所ニ注意ス可シ此等ノ準備ハ何事ヨリモ最モ肝要ナル初次ノ底査ヲ妨クルコト無ク之ヲ行フ可シ

檢事臨場スルヤ直チニ他ノ司法警察官ハ豫審判事ヲ除ク外檢事ノ指揮命令ヲ受ケテ處分ス可シ

此編ノ理由

刑事訴訟書類ヲ編纂スルカ爲メ別ニ則ル可キ不變ノ定式モ不動ノ言語モアルニ非ス證書或ハ調書ハ其體裁及言詞ノ如何ナルヲ問ハス順序正シク且ツ明白ニシテ法律上有効ナルニ必要トセル諸件ヲ包含スルトキハ無缺ナルモノトス

因テ各司法警察官ハ固ヨリ適宜ノ體裁ヲ用ヒ其得意ノ文體ヲ以テ編纂シテ妨ケナシトス然レトモ習慣ニテ用ヒ來レル合理簡明ノ方法及文例アリ

書式ハ各書類ノ必要ナル方式ヲ明白ニ略記シ之ヲ一日瞭然ニ解示スルノ利アリ

又書式ハ初任ノ警察官文例ヲ求ムルニ甚タ便利ニシテ且ツ必要ナリトス

第一 口述告發調書

何年何月何日何時

檢事ノ補佐司法警察官又ハ軍服ヲ著用シタル憲兵伍長何某及憲兵何某ナル余等ノ許ニ

何所居住何職業何某出頭シテ左ノ告發ヲ爲セリ

何年何月何日何所ニ於テ何々ノ事實ヲ見タリ又ハ聞キタリ

此事實ノ本人ハ何某ナリ

證人ヲ舉クレハ

第一 何所居住何職業何某

第二

第三

茲ニ證據物件トシテ何々ヲ差出スナリ

本書ヲ朗讀セシニ其陳述ノ事實誠實ナル旨ヲ余等ノ請求ニ從ヒ何某(告發人)誓言シ余等ト共ニ毎頁ニ署名セリ

(署名)

第二筆記告發受領調書
 何年何月何日何時
 檢事ノ補佐司法警察官又ハ軍服ヲ着用シタル憲兵伍
 長何某及憲兵何某ナル余等ノ許ニ
 何所居住何職業何某出頭シ
 毎頁ニ本人ノ署名セル此告發書ヲ余等ニ差出シ其告
 發ノ事實誠實ナル旨ヲ余等ノ請求ニ從ヒ誓言セリ因
 テ余等モ亦毎頁ニ署名シ其請願ニ依リ受領證書ヲ何
 某ニ下附セリ
 本書朗讀ノ後ヲ余等ハ何某ト共ニ署名セリ
 (署名)

第三口述告訴

何年何月何日何時
 檢事ノ補佐司法警察官又ハ軍服ヲ着用シタル憲兵伍
 長何某及憲兵何某ナル余等ノ許ニ
 何所居住何職業何某出頭シ
 左ノ告訴ヲ受ケシコトヲ余等ニ請求セリ
 (告訴人ノ談話シ説明スルマ、事實ノ情狀ヲ茲ニ詳
 記ス)

何某ハ何々ヲ證人トス
 何某ハ證據物件トシテ何々ヲ余等ニ交付セリ
 告訴人ハ民事原告人トナル事又ハ今ノ所ニテハ民事
 原告人トナルコト無ク唯公安ノ爲メ損害ヲ告發スル

事ヲ余等ニ陳述セリ
本書ヲ朗讀セシニ何某ハ事實告訴ノ通りニ相違之レ
ナキコトヲ余等ノ請求ニ從ヒ誓言シ而シテ余等ト共
ニ毎頁ニ署名セリ

(署名)

第四 檢視調書

何年何月何日何時
余等ハ公衆ノ追呼(或ハ何某ノ告發或ハ檢事某氏ノ通
告或ハ何調書或ハ請求書)ニ依リ左ノ件々ヲ知レリ
昨夜何時頃何所居住何職業甲某歸宅セントスル際
乙某ノ戸ノ開キアルヲ見テ何カ變事ノナキヤヲ確
ムルカ爲メ乙某ノ室ニ入ラントセシニ血ニ塗レタ

ル者周章シテ出テ來リ甲某ヲ排除シテ遁レントセ
リ然ル所甲某ハ其從僕何某門番何某及隣室ノ者數
人ヲ援助ヲ得テ此者ヲ逮捕シ然ル後甲某及隨件
者ハ室内ニ入りシニ乙某臥床ニ於テ刺サレ絶命セ
ルヲ目撃セリ
因テ檢事ノ補佐司法警察官又ハ軍服ヲ着用シタル憲
兵伍長何某及憲兵何某ナル余等ハ余等ノ請求シタル
何々署ノ警部何某氏及何所居住醫師何某ト同道ニテ
何町何番地ノ家宅ニ出張シ此家ノ外部及出入口ヲ守
ラシメ調書ヲ作り終ハルマテハ何人ト雖モ余等ノ許
可ヲ得スシテ家外ニ出ツルコトヲ禁止セリ(司法警察
官ハ獨リ此禁止ヲ言渡スノ權利ヲ有ス)

余等ハ奥ノ右ナル梯子ヨリ二階ニ登リ庭園ニ臨メル
一室ニ案内サレシニ左ノ人々集合セリ

第一 乙某ノ從僕何某

第二 同家内ノ兩隣室ノ何某及何某

第三 甲某及其從僕ノ逮捕シタル者トシテ余等ニ

指示サレタル人

余等ノ尋問ニ依リ此人ハ何所居住何職業ニコラ、ベト
云ヘリ

余等ハ何人モ此者ト交話セサル様或ハ嫌疑アルモノ
ナ一モ破滅セサル様ニ注意ヲ加ヘテ公力員ノ手ニ之
ヲ付セリ

余等ハニコラ、ベ並ニ立會人トシテ前ニ揭示セル諸人

ノ面前ニ於テ證罪物及情狀ヲ檢證シタルコト左ノ如
シ

庭園ニ臨メル寢室ニ於テ牀布毛布及枕ノ血ニ染メル
臥床ニ男性ノ死屍アルヲ見タリ、從僕某及隣室ノ某々
ハ之ヲ乙某ノ屍ナリト陳述セリ

此屍ハ唯襦袢ノミヲ著シ綿帽ヲ頂キテ倒レテアリタ
リ、襦袢及帽ハ血ニ染ミ且ツ袴襦ノ前部ニハ數箇所ノ
穴アリ

血ハ壁マテ注射シアリタリ
臥床ヨリ少シク離レタル所ニ身ノ長サ幾散知米突ア
ル黒檀柄ノ匕首アリ、鍛冶工ノ名モ記號モ無シ此匕首
ハ血ニテ染ミタリ

寢室ニ入テ右ナル筆筒ノ上ニ新製ノ白鐵ニシテ覆光板アル忍提燈アリタリ其中ニ少シ殘レル蠟燭ハ消ヘテアリタリ

甲某ノ死亡ノ原因ヲ搜查スルコトヲ余等ノ請求シタル前記醫師何某何某ハ余等ニ對シ本心ニ思フ所ニ從テ検査シ報告シ意見ヲ述フ可キヲ宣誓セリ(獨リ司法警察官ハ宣誓ヲ求メ之ヲ受クル權利ヲ有ス)

醫師検査ヲ爲シ終ハリテ左ノ如ク報告セリ

屍ヲ検査セシニ何々ヲ認識セリ

屍ヲ解剖セシニ何々ヲ發見セリ

余等ノ請求ニ依リ何々ノ場所ト死者ノ襦袢ノ切れ目トヲ比較セシニ此切れ目ハ其位置及方向ニ照ラ

セハ全ク傷所ニ符合シ其長サモ同一ナルニ因リ同一ノ刃物ヲ以テ傷ケタルモノト認定ス

又余等ノ請求ニ依リ傷所ト室内ニテ發見シタルヒ首ノ身ト比較セシニ身ノ巾ハ傷所ノ長サニ符合セリ

是ニ因テ之ヲ觀レハ何々ノ傷所ハ輕シト雖モ何々ノ傷所ハ重キヲ以テ速ニ死ニ致シタルモノトス何々ノ傷所並ニ襦袢ノ切斷ハ同一ノ刃物ニテ之ヲ生シ此刃物ハ前記ノヒ首ナリトス傷所ノ數及死者ノ面部兩手ノ摺疵ノ數ニ據レハ被害者ハ謀殺人ニ抗シ防衛セント試ミタルモノト思料セラレタリ

余等ハ醫師ニ請求シテ被告人ノ身體ヲ検査セシメシ
ニ醫師左ノ如ク報告セリ

其面部、兩手、上着、胴服、襦袢及頸布ハ血ニ染ミ、其右手
及其左ノ手節ニハ數箇所ノ摺疵アリ又何手ノ何指
ニハ嚙痕アリ、此摺疵及嚙痕ハ新ラシクシテ尙ホ血
ニ染ミテアリ

此報告ヲ終ハリタル後ナ余等ハ其室ノ家具物品中ニ
錯雜シ又ハ破壊シタルモノ無キヤヲ検査シタリシニ
盜ミ或ハ盜マントシタル形跡ハ毫モ無カリキ
如何ニシテ被告人カ此室内ニ入りシヤヲ検査セシニ
入口戸ニハ一モ損壞ノ痕跡ヲ發見セサリキ、鍵ハ錠中
ニ在リタリ此鍵ハ新製ノモノニモ非ラス、又新ラシキ

錠目モ無クシテ能ク錠ニ適合スルニ因リ是レハ此錠
ノ眞正ノ鍵ナリト思料セラレリ

往來ニ臨メル門ハ半開スルヲ以テ謀殺人此門ヨリシ
テ家ニ入りシト思料ス、庭園ト家トノ間ニハ唯一重ノ
土塀アルノミニシテ此門ハ唯挿鎖ニテ閉鎖スルノミ
ナレハナリ、是故ニ謀殺人カ庭内ニ遺セシ足跡ヲ湮滅
混淆セサルカ爲メ余等ハ表ヨリ廻ハリテ此庭門ニ赴
ケリ

往來ハ石ヲ舗ケルニ因リ毫モ痕跡ヲ存セス、然シ庭門
ヨリ家ニ通スル道ニハ昨日ノ降雨ニテ地濕メレルヲ以
テ庭門ヨリ家マテ足跡ヲ留メリ、此足跡ハ片足ツ、違
ヘル靴ノ跡アリ其一ハ靴ノ踵ノ釘三十本ノ痕跡アリ

其一ハ釘二十八本ノミニシテ踵ノ中部ノ釘ヲ欠ケリ
余等ニコラ、ベノ靴ヲ脱セシメテ検査セシニ其左足ノ
靴ハ全ク釘三十本ノ痕跡ニ符合シ其右足ノ靴ハ釘二
十八本ノ痕跡ト全ク同クシテ中部ノ釘一本不足セリ
然ル後ヲ余等ハニコラ、ベノ懷中ヲ改メシニ唯通用鑰
一箇ヲ發見シタルノミ、之ヲ庭門ニ試ミシニ容易ニ之
ヲ開クコトヲ得タリ
余等ハ被告人ノ面前ニ於テ證據物件ニ供スルカ爲メ
死者ノ襦袢、綿帽、牀布、毛布ト匕首、室ノ鍵、ニコラ、ベノ懷
中ヨリ發見シタル通用鑰ト何町何番地古衣商何某ヨ
リ納メシメタル衣類及靴ヲ給シテ被告人ニ脱セシメ
タル衣服及靴トヲ差押ヘタリ

余等ハ差押物件ヲ一箇ノ木綿囊中ニ入レ結ヒ目ノ無
キ繩ヲ以テ閉テ其兩端ヲ結ヒテ之ニ紙帶ヲ附シ赤封
蠟ニテ封印セリ、被告人ニコラ、ベハ余等ノ求メニ依リ
余等ト共ニ此紙帶ニ署名セリ

乙某ノ死亡證書ヲ編纂スルニ必要ナル要件ヲ何人モ
述ヘス、然ル處隣室ノ何某ハ乙某ノ出産證書ハ彼ノ戸
棚中ニ在リト告ケタルニ依リ余等ハ死者ノ袴ノ「カク
シ」中ニテ發見シタル鍵ニテ戸棚ヲ開キシニ一ノ抽子
ヨリ左ノ出産證書ヲ得タリ

乙某ハ何年何月何日何時何地ニ出生シ何々ト命名
セリ、其父ハ何某及其母ハ何某云々
死者ハ無妻ニシテ其父母ハ先年死亡セシ旨ヲ何某及

何某余等ニ陳述セリ
 余等ハ當地ノ治安裁判官ノ職權ヲ重シシ其封印ヲ受
 クルカ爲メ此裁判官ニ乙某ノ死亡ヲ通告シ而シテ其
 臨場スルニ及テ戸棚ノ鍵ヲ之ニ交付セリ
 此調書朗讀ノ後テ余等ハ警部某氏前記醫師及被告人
 ニコラ、ベト共ニ每頁ニ署名セリ
 余等ハ其後テ何町何番地ニコラ、ベノ家宅ニ出張シ本
 人ノ立會ノ上ニテ其家宅ニ屬スル諸場所ヲ搜索獨リ
 司法警察官ハ家宅搜索ヲ爲スノ權利ヲ有スセシ所宛
 名アツテ署名ノ無キ一通ノ手紙ノ硝子鏡ノ後ロニ隱
 クシアルヲ發見シタルノミニシテ其他一ツモ差押フ
 ヘキモノナカリキ此手紙ノ文面ハ「明夕マテ延期セヨ

明朝例ノ會合所ニ於テ其次第ヲ申サントアリタリ
 余等ノ請求ニ依リニコラ、ベハ此手紙へ余等ト共ニ署
 名セリ
 而シテ本調書朗讀ノ後テ、、、
 本調書ト別ニシテ編纂セル證人訊問調書及被告人ニ
 コラ、ベノ訊問書ニ據レハ重キ嫌疑ハ死者ノ甥ノエル
 ニ掛リタルニ因リ前記警察官タル余等ハ前記立會者
 ナ隨伴シテ速ニ何町何番地ノ其家宅ニ出張セン處本
 人不在ナリシヲ以テ余等ノ請求シタル錠工何某ヲシ
 テ其宅ノ戸ヲ開カシメノエルノ居住ニ屬スル諸所ヲ
 搜索センメシニ毫モ疑フ可キ物無カリキ
 ノエルハ余等ノ此處分中ニ逮捕ニ就キタルニ因リ余

等直チニ推問シタル後チ之ヲ連レテ其伯父ノ家宅ニ
 戻リテ其屍ト本人トヲ對質セシ處ノエルハ之ヲ見テ
 顔色ヲ青フシ其身ヲ振動セリ之ヲ認識スルヤト余等
 ノ尋問セシ時吃リツ、是レハ伯父ナリ其謀殺者ハ大
 罪人ナリト余等ニ陳述セリ
 此調書朗讀ノ後チ、
 ニコラ、ベハ乙某ノ謀殺ノ正犯ニシテノエルハ必要ノ
 方法手段ヲ教ヘテニコラ、ベニ犯罪ヲ遂ケシメタルニ
 因リ其從犯トシテ余等此ニコラ、ベ及ノエルヲ勾捕シ
 直チニ檢事ノ許ニ之ヲ引致セシメタリ
 何年何月何日何時何所ニ於テ本書ヲ作り余等朗讀ノ
 後之ニ署名セリ

(署名)

第五 被告人訊問調書

何年何月今日

檢事ノ補佐司法警察官又ハ軍服ヲ着用シタル憲兵伍
 長何某及憲兵何某ハ何地ニ於テ何々ノ被告人ヲ訊問
 シタル件々左ノ如シ

問 汝ノ氏名、年齢、身分、住所及産地如何

答 何地出生何町何番地居住何職業何歳ニコラ、ベ
 ナリ

問 、 、 、 、 、
 答 、 、 、 、 、

何々ノ證據物件ヲ被告人ニ示シ辨解ヲ促セシニ何々

ト答辨セリ
本書ヲ朗讀セシニ之ニ相違ナキコトヲ陳述シ本人ハ
余等ト共ニ署名セリ
削除シタル語幾箇ヲ取消シ欄外記入ノ幾語ヲ承認ス

(署名)

第六 被告人對質

ケニッセルノ事件ニ關シ會議局ニ於テ作レル報告書中
ニ數箇ノ對質書アリ、此中方法ヲ簡單ニシテ則リ易キ
モノヲ左ニ拔萃セン
直チニ余等ハ某甲ヲ余等ノ許ニ引致セシメ之ヲ識
レルヤヲ乙某ニ問ヘリ
乙某答テ曰ク然リ是レハ何某氏ナリ

乙某ヲ某甲ニ指シテ問フ汝ノ前ニ在ル人ヲ識レル

ヤ

答 余ハ之ヲ識ラス、此人余ヲ識レルヤハ知ラサレ

トモ余ハ決シテ之ヲ識ラス

乙某ニ向テ問フ 某甲ハ八月中シヤロンヌ町ノ酒

商ノ家ニ催フセシ集會ニ列シタルヤ

答 然リ

問 某甲ハ此集會ニ於テ何々ニ關シ發言シ何々ヲ

尋問シタルヤ

答 然リ

某甲ニ問フ 何ヲ云ヒシヤ

答 余ハ此人ノ言ヘルコトヲ少シモ知ラス

乙某ニ問フ 甲某ハ汝カ罪ヲ犯セシ時汝ノ傍ラニ
在リシヤ

答 余ハ距離ヲ明言スル能ハス、然シ甲某ハ他ノ輩
ト共ニ在リシコトヲ能ク知レリ

問 甲某ハ發聲セサリシヤ

答 余ハ知ラス

甲某ニ問フ 乙某ノ罪ヲ犯セシ時汝ハ其傍ラニ在

リシヤ

答 否余ハ余少家ニ在リタリ、此人ヲ知ラス、此人何
ヲ云フカ一向解セス

(其他ノ問答ハ略ス)

第七 證人訊問調書

何年何月今日

在何地檢事補佐司法警察官又ハ軍服ヲ著用シタル憲
兵伍長何某及憲兵卒何某ナル余等ノ許へ
何々ノ被告人何所居住何職業何某ノ件ノ訊問ニ就キ
左ノ證人出頭セリ

被告人ノ在ラサル所ニ於テ各證人ヲ別々ニ呼入レ其
氏名、年齢、職業及住所ト被告人ノ婢僕ナルヤト其何等
ノ血族或ハ姻族ナルヤトヲ尋問セシニ左ノ如ク口頭
ニテ答へ且ツ陳述セリ

第一 シアン、エス幾歲、何職、何區何町何番地居住、被
告人ノ婢僕ニモ其何等ノ血族或ハ姻族ニモ非ス
陳述ノ件左ノ通り

何日何時何所ニ於テ何々ノ方法ニテ何々ヲ見タ
リ或ハ聞キタリ

此外何々ヲ知ル

余等何々事實ノ説明又ハ何々情狀ニ關シ證人ノ知ル
事或ハ被告人ノ行狀ノ陳述ヲ求メシニ證人ハ何々ト
答ヘリ

何々ノ證據物件ヲ示セシニ證人ハ何々ト答ヘリ
朗讀セシニ之ニ相違ナシト云ヒ署名スルコトヲ得ス
ト陳述セリ而シテ余等署名セリ

(署名)

又前ト同一ノ方式ヲ以テ本日ノ調書ヲ左ノ如ク繼續
セリ

第二 ルイ、サミュエル幾歲地主、何地居住、被告人ノ

婢僕ニハ非レトモ其三等姻族ナリ陳述ノ件左ノ

通り

、、、、、

朗讀セシニ之ニ相違ナシト云ヒ而シテ余等ト共
ニ署名セリ

(署名)

又前ト同一ノ方式ヲ以テ本日ノ調書ヲ左ノ如ク繼續
セリ

第三 シユル、デ十四歲、無職業、何地居住、被告人ノ婢

僕ニモ或ハ血族姻族ニモ非ス、民事原告人ビエル、

エンヌ、ノ三等親ナリ陳述ノ件左ノ通り

朗讀以下前同斷 削除シタルニ語ハ取削シ欄外
記入ノ幾語ヲ承認ス

(署名)

第八 勾引狀

檢事ノ補佐司法警察官何某ナル余ハ
治罪法第四十條ニ依リ
被告罪ニ關シ訊問ノ義有之ニ就キ
法律ニ依リ被告人何地居住何職何某ヲ余ノ許ニ勾引
ス可キヲ諸執達吏或ハ公力員ニ命ス
必要ノ場合ニ於テハ本狀執行ノ爲メ助力アラシムコト
ヲ諸公力員ニ請求ス

年月日何地ニ於テ之ヲ作ル

(印及署名)

第九 家宅搜索調書

檢察官ノ令狀又ハ現行犯ノ場合ニ於テ此資格ヲ
以テ處分スル司法警察官ノ令狀ニ依リ家宅搜索
ヲ檢證スル調書

何年何月何日何時

何官ナル余ハ被告人何某ヲ搜索シ贓物及其他ノ證據
物件ヲ差押ヘルカ爲メ何某ノ家宅搜索ヲ命セル幾日
附豫審判事某氏ノ令狀ヲ執行スルニ就キ豫メ其地ノ
區長或ハ警部ノ立會ヲ請求セシニ之ニ應シタルニ因
リ同道ニテ余等ハ何某ノ家宅ニ出張シ余等ノ任務ヲ

告ケタル後之ニ請求シテ諸室、雪隠、戸棚、納屋、穴藏等ヲ直チニ開カシメ各所ニ於テ被告人及物件ヲ隱匿スル爲メニ潜伏所ノ設ケアラサルヤヲ檢査シタル後壁牀板、暖爐ヲ改メ物置所、車部屋、厩等ヲ搜索シ馬糧、藁及薪ヲ動カシダレトモ一物タモ發見セサリキ又ハ二階或ハ納屋等ニ於テ發見セリ

被告人或ハ贓物ヲ發見シタル場所及差押ヘタル物件ヲ茲ニ書ス可シ、若シ被告人ヲ逮捕シタル時ハ其面前ニ於テ其氏名ヲ示シ其面前ニ於テ搜索ヲ繼續ス可シ又贓物、證據物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ被告人ニ認メシメ其旨ヲ記載シ爾ル後チ被告人ヲ檢事ノ許ニ引致セシメ而シテ證據物件ヲ書記局ニ差

出ス可シ

余等調書ヲ作ルコト如件

補佐警察官及憲兵ノ處分ヲ要スル重罪及輕罪ノ名稱(刑法及其他ノ法規ニ定メタルモノヲ可成的多ク集メタリ)

第一 内亂或ハ外患ニ關スル罪

一 白耳義人其本國ニ對シテ兵器ヲ攜帶スル事(刑法第百十三條)

一 白耳義ノ敵國ノ者又ハ其同盟國ノ者ト通謀シ或ハ合同シ或ハ通信シ或ハ内通スル事(刑法第百十四條、第百十五條、第百十六條及第百十七條)

一 政府ノ機密ヲ泄漏シ又ハ我國ノ要塞、造兵廠、港

灣ノ圖面ヲ敵若クハ外國官吏ニ交付スル事(刑法
第一百十八條、第一百十九條及第一百二十條)

一 敵ノ間諜或ハ敵兵ヲ隱匿スル事(刑法第二百十
一條)

一 政府ヨリ許可ヲ得スシテ外國ニ對シ抗敵シ或
ハ侵擊スル事(刑法第二百二十三條)

一 國王或ハ皇族ノ生命或ハ身體ニ對シ加害シ或
ハ隱謀ヲ爲ス事(刑法第一百一條、第一百二條、第一百三條
第一百六條、第一百七條及第一百八條)

一 政府或ハ王權ニ對シ加害シ或ハ隱謀ヲ爲ス事
(刑法第九條及第一百十條)

一 事ニ著手シタル時此加害ノ計畫(刑法第一百十二

條

一 協議ノ既成未成ヲ問ハス此隱謀ノ豫備(刑法第
百十一條)

一 内亂、荒廢、殺戮或ハ奪掠ヲ目的トスル加害或ハ
隱謀(刑法第二百二十四條及第二百五條)

一 政府ノ許可ヲ得スシテ兵隊ヲ招集シ或ハ兵ヲ
募ル事(刑法第二百二十六條)

一 軍隊ノ司令權ヲ押領シ或ハ濫用スル事(刑法第
百二十六條)

一 敵ヲ利スルノ意ヲ以テ放火シ或ハ破壊スル事
(刑法第二百二十二條)

一 兵器ヲ帶ヒタル團體ヲ編組シ指揮シ之ト合同

シ或ハ之ヲ援助スル事(刑法第二百二十八條、第二百二十九條、第三百三十條、第三百三十一條、第三百三十二條及第三百三十三條)

一 公然此罪ヲ教唆スル事(千八百八十七年八月二十三日ノ法律)

第二 憲法ニ依リ授與セララル、權利行使ニ關スル罪
一 選舉權ノ侵害及選舉法ニ規定セル投票ニ不法ノ所爲アル事

一 各人ノ自由或ハ其他ノ人權ノ侵害(刑法第四百四十七條、第四百五十一條、第四百五十二條、第四百六十條、第四百五十四條及第四百五十五條)

一 其他ノ越權(刑法第五百五十八條及第五百五十九條)

一 政府ニ對スル官吏ノ同盟(刑法第二百三十四條、第二百三十五條及第二百三十六條)

一 司法官カ他官ノ權ヲ犯ス事又ハ他官カ司法權ヲ犯ス事(刑法第二百三十七條及第二百三十九條)

一 公權行使ノ妨害(刑法第三百三十七條及第四百四十一條)

一 不法逮捕及監禁(刑法第五百五十七條)

一 法律ニ反對スル處置ヲ施スヲ目的トスル官吏ノ同盟(刑法第二百三十三條)

一 正式ノ手續ヲ以テ行政官ノ引受ケタル件ニ關シ司法官カ判決シ或ハ請求スル事(刑法第二百三十八條)

一 行政官カ司法官ノ職務ヲ押領スル事(同上)

第三 偽造ノ罪

一 偽造貨幣ヲ製造シ輸入シ或ハ通用スル事(刑法第六十條、第六十一條、第六十二條、第六十三條、第六十四條、第六十七條及第六十八條)

一 官印、公券、銀行券及政府ニ於テ用フル印紙、記號或ハ印章ヲ贋造シ或ハ贋造ノ官印、印紙、記號或ハ印章ヲ使用スル事(刑法第七十三條、第七十六條、第七十九條、第八十條、第八十二條及第八十五條)

一 官ノ文書ヲ偽造シ或ハ使用スル事(刑法第九十四條、第九十五條、第九十六條及第九十七條)

條

一 私書ヲ偽造シ或ハ使用スル事(刑法第九十六條及第九十七條)

一 偽名ノ旅券、免狀或ハ證書ナルコトヲ知テ之ヲ交付シ或ハ之ヲ使用スル事(刑法第二百二條及第二百六條)

一 偽造旅券或ハ證書ヲ製造シ或ハ之ヲ得或ハ之ヲ使用スル事(刑法第二百條、第二百一條及第二百六條)

一 偽造診斷書ヲ交付シ或ハ之ヲ得ル事(刑法第二百四條)

第四 官吏其職務執行中ニ犯セル重罪及輕罪

- 一 瀆職(刑法第二百六十六條)
- 一 會計官或ハ保管吏其資格ニテ領收シタル有價物或ハ物件ヲ曲用スル事(第二百四十條及第二百四十一條)
- 一 收斂(刑法第二百四十三條及第二百四十四條)
- 一 收賄及收賄ノ未遂犯(刑法第二百四十六條、第二百四十八條、第二百四十九條、第二百五十條、第二百五十二條)
- 一 官ノ命令執行中濫リニ暴行ヲ加フル事(刑法第二百五十七條)
- 一 法律或ハ命令ニ反シテ公力員ヲ使用スル事(刑法第二百五十四條、第二百五十五條、第二百五十六條)

條、第二百六十條

- 一 官吏會計ヲ擔當シ或ハ監督スル競走入札或ハ請負ニ關シ私利ヲ營ム事(刑法第二百四十五條)
- 一 家宅侵害(刑法第二百四十八條)
- 一 裁判拒絕(刑法第二百五十八條)
- 一 郵便局ニ委托セラレタル書翰ヲ破毀シ或ハ開封スル事(刑法第四百十九條)
- 一 零紙ハガキニ身上證書ヲ記載スル事(刑法第二百六十三條)
- 一 夫ヲ亡ヒシヨリ十箇月未滿ニシテ寡婦ノ再婚禮ヲ執行スル事(刑法第二百六十四條)
- 一 制規ノ承諾書或ハ結婚請誨書無キニ婚禮ヲ執

行スル事(刑法第二百六十四條)

- 一 此承諾書及結婚請誨書ヲ結婚證書中ニ記載セサル事(刑法第二百六十四條)
 - 一 配偶者徵兵令ノ義務ヲ果シタルノ證據ヲ求メスシテ婚禮ヲ執行スル事(刑法第二百六十四條)
 - 一 承諾ヲ請求シタル者ノ意ニ反シテ婚禮ヲ執行スル事(刑法第二百六十五條)
 - 一 官吏宣誓前又ハ免官或ハ停職後ニ其職務ヲ行フ事(刑法第二百六十一條及第二百六十二條)
- 第五 教導職其任務執行中ニ公安ヲ害スルノ罪
- 一 身上證書ヲ受クル前ニ婚姻ノ宗教上ノ禮式ヲ行フ事(刑法第二百六十七條)

- 一 口述ト筆記トヲ論セス教唆シテ法律或ハ官吏ニ從ハサラシメ又ハ謀反或ハ内亂ヲ起サシメントシタル事但シ此教唆ノ結果アリタル時ニ限ル(刑法第二百六十八條)

第六 官吏ニ對スル抗抵、抗命等

- 一 法官或ハ其他ノ官吏ニ對スル侮辱、暴行、攻撃或ハ抵抗(刑法第二百六十九條以下及第二百七十五條以下)
- 一 番人或ハ馭者ノ故意或ハ懈怠ニ依リ重輕罪ノ被告人ヲ逃走セシムル事(刑法第三百三十四條以下)
- 一 破獄或ハ暴行及兇器ノ資供ヲ以テ囚徒逃走ヲ

幫助スル事(刑法第三百三十七條)

一 故意ヲ以テ官吏ノ封印ヲ破毀スル事(刑法第二百八十三條以下)

一 官ニ寄托スル物品ヲ窃取シ破壊シ或ハ除去スル事(刑法第二百八十七條)

一 教導職ノ職務執行中之ニ對シ暴行ヲ加フル事(刑法第四百十五條)

一 重罪犯人ヲ隱匿スル事(刑法第三百三十九條以下)

一 公力員ノ司令官、地方官或ハ司法官ノ適法ノ請求ニ應スルヲ拒絕スル事(刑法第二百五十九條)

第七 公安ヲ害スル罪

一 惡徒ノ集會(刑法第三百二十三條及第三百二十四條)

一 乞丐或ハ浮浪ノ徒ノ爲セル暴行(刑法第三百四十二條以下)

第八 人身ニ對スル罪

一 謀殺、親殺、子殺、毒殺及故殺(刑法第三百九十四條、第三百九十五條、第三百九十六條及第三百九十七條)

一 書面ナルト體様或ハ記號ナルト口述ナルトヲ論セス人身或ハ財産ニ對シ重害ヲ加フルコトヲ命令的或ハ約束的ニテ脅迫スル事(刑法第三百二十七條以下)

- 一 死亡又ハ疾病又ハ營業不能又ハ輕創傷ヲ惹起セシメタル故意毆打創傷(刑法第三百九十八條以下)
- 一 墮胎シ或ハ故ラニ不良ノ物質ヲ服用セシメ因テ疾病或ハ營業不能ヲ惹起スル事(刑法第三百四十八條、第三百四十九條、第三百五十條、第三百五十一條、第三百五十二條、第三百五十三條)
- 一 暴行ノ有無ヲ論セス十四歲未滿ノ子女ニ對スル強姦、淫行(刑法第三百七十二條以下)
- 一 重婚○身分官吏第一ノ婚姻ノ未タ解ケサルコトヲ知テ第二ノ婚禮ヲ執行スル事(刑法第三百九十一條)

- 一 不法逮捕及監禁(刑法第四百三十四條、第四百三十五條、第四百三十六條、第四百三十七條及第四百三十八條)
- 一 子女ノ身分ヲ廢滅シ交換シ或ハ擬僞スル事(刑法第三百六十三條、第三百六十四條、第三百六十五條及第三百六十七條)
- 一 未成年者ヲ略取誘拐スル事(刑法第三百六十八條、第三百六十九條及第三百七十條)
- 一 僞證(刑法第二百十五條、第二百十六條、第二百十八條、第二百十九條及第二百二十條)
- 一 證人ノ收賄及誘惑(刑法第二百二十三條及第二百二十四條)

- 一 民事上ニ關スル偽宣誓(刑法二百二十六條)
- 一 決闘ヲ教唆シ決闘中殺傷シ又ハ證人トシテ決闘ニ立會スル事(刑法第四百二十三條以下)
- 一 禁制兵器ヲ製造シ販賣シ或ハ携帶スル事(刑法第三百十六條、第三百十七條、第三百十八條)
- 一 猥褻(刑法第三百八十五條)
- 一 他人ノ情慾ヲ充タスカ爲メ遊興亂行ヲ惹起シ幫助シ或ハ容易ニシテ風俗ヲ亂スノ罪(刑法第三百七十九條)
- 一 姦通(刑法第三百八十七條、第三百八十八條及第三百八十九條)
- 一 子女ノ出産届ヲ爲サル事或ハ棄兒ヲ身分官

吏ニ交付セサル事(刑法第三百六十一條及第三百六十二條)

- 一 子女ヲ委托セラレタル者此子女ヲ差出サル事(刑法第三百六十六條)
- 一 子女ヲ寂寥ノ場所或ハ寂寥ナラサル場所ニ棄テ或ハ置ク事(刑法第三百五十四條、第三百五十五條、第三百五十六條、第三百五十七條、第三百五十八條及第三百五十九條)
- 一 略取誘拐(刑法第三百六十八條以下)
- 一 許可ヲ得スシテ又ハ急速ニ死者ヲ埋葬スル事(刑法第三百十五條)
- 一 殺サレタル人ノ死骸ヲ隱匿スル事(刑法第三百

四十條

- 一 墳墓ヲ發掘スル事(刑法第四百五十三條)
- 一 國王ノ憲法上ノ權、其身體、議會ノ權ニ對スル攻撃(千八百三十一年七月二十日ノ布告)
- 一 國王或ハ皇族ニ對スル凌辱(千八百四十七年四月六日ノ法律)
- 一 外國ニ對スル凌辱(千八百十六年九月二十八日及千八百五十二年十二月二十日ノ法律)
- 一 官吏或ハ公力員或ハ其他ノ者ニ對シ讒謗或ハ侮辱スル事(千八百三十一年七月二十日ノ布告第四條)
- 一 出版自由ノ濫用(同上)

- 一 讒謗ナル告發(刑法第四百四十五條)
- 一 身分或ハ職業ニ依リ守ル可キ秘密ヲ他人ニ泄漏スル事(刑法第四百五十八條)
- 一 公然犯罪ヲ教唆スル事(千八百八十七年八月二十三日ノ法律)

第九 財産ニ對スル罪

- 一 盜(刑法第四百六十三條以下)
- 一 不良物ヲ混淆シテ商品或ハ貨物ヲ變造シ或ハ贋造スル事(刑法第四百五十四條以下及第五百條以下)
- 一 鍵ヲ贋造シ或ハ變造スル事(刑法第四百八十八條以下)

- 一 金錢署名書或ハ物件ヲ赫取スル事(刑法第四百七十條)
- 一 詐偽倒産及通常倒産(刑法第四百八十九條)
- 一 製造所ノ所長、書記、職工カ此製造所ノ秘密ヲ泄漏スル事(刑法第三百十一條及第三百十二條)
- 一 用便ヲ欠カシメタル請負人ノ罪及之ヲ幫助シタル官吏ノ罪(刑法第二百九十二條及第二百九十三條)
- 一 不動産ニ放火シ或ハ故意ヲ以テ之ヲ破壊スル事(刑法第五百十條乃至第五百十三條、第五百十六條、第五百二十條及第五百二十一條)
- 一 故意ヲ以テ商業手形或ハ銀行券或ハ官ノ文書

ヲ破壊スル事(刑法第五百二十七條)

- 一 數人合同シ或ハ團隊ヲ爲シ兵器ヲ手ニシテ貨物、商品或ハ動産ヲ奪掠シ或ハ毀損スル事(刑法第五百二十八條及第五百二十九條)
- 一 公共ノ紀念碑ヲ破壊スル事(刑法第五百二十六條)
- 一 差押ヘタル者差押物件或ハ預リタル物件又ハ他人ノ保管セル物件ヲ破壊シ或ハ曲用スル事(刑法第四百七十條)
- 一 詐偽取財(刑法第四百九十六條)
- 一 背信(刑法第四百九十一條及第四百九十三條)
- 一 裁判所ニ差出シタル物件ヲ竊盜スル事(刑法第

四百九十五條

一 賭博場或ハ富場ヲ設クル事(刑法第三百一條以下)

一 許可ヲ得スシテ質店ヲ設クル事或ハ簿記ノ違法ノ事(刑法第三百六條及第三百七條)

第十 監視違犯(刑法第三十五條、第三十六條、第三十七條、第三百三十八條)

第十一 靜謐ヲ害スル罪

一 官職ヲ詐稱シ又ハ制服或ハ勳章ヲ僭用スル事(刑法第二百二十七條、第二十八條及第二百三十條)
一 禮拜ノ執行ヲ妨害スル事(刑法第四百十二條及第四百十三條)

一 禮拜ニ供シタル場所ニ於テ禮拜ノ物件又ハ職務ヲ執行セル教導職ニ對シ侮辱ヲ加フル事(刑法第四百四十四條及第四百四十五條)

一 浮浪ノ徒(千八百六十六年三月六日ノ法律)

一 乞丐(刑法第三百四十二條、千八百六十六年三月六日ノ法律)

一 乞丐或ハ浮浪ノ徒、微服、兇器、禁携器具或ハ偽造ノ免狀ヲ携帯スル事(刑法第三百四十三條及第三百四十四條)

第十二 商業或ハ工業ヲ害スル罪

一 未成年者ノ虛弱或ハ慾情ニ乘シテ之ニ高利ニテ金錢ヲ貸ス事及成年者ノ虛弱或ハ慾情ニ乘シ

テ平常高利ノ金ヲ貸ス事(刑法第四百九十三條以下)

一 許可ヲ得スシテ危険或ハ不潔或ハ不便ノ建造物ヲ使用スル事又ハ許可ノ條件ニ違背スル事(千八百六十三年一月二十九日ノ勅令)

一 競賣自由ヲ妨害スル事(刑法第三百十四條以下)

一 工長及職工ノ同盟スル事並ニ工長及職工ノ自由ヲ侵害スル事(刑法第三百十條)

一 商標ヲ贋造スル事(千八百七十九年四月一日ノ法律)

一 商品或ハ貨物ノ代價ヲ高下スル爲メニ運動スル事(刑法第三百十一條及第三百十二條)

一 商品ノ品質ヲ欺キ又ハ偽造ノ度量衡或ハ禁制ノ度量衡ヲ使用スル事(刑法第四百九十八條及第四百九十九條)

一 贋造シタル或ハ健康ニ害アル貨物及食物ヲ販賣シ或ハ展列スル事(刑法第五百條以下及第五百六十四條第三)

一 版權及意匠權ヲ侵害スル事(千八百八十六年三月二十二日ノ法律)

一 官ノ請負人或ハ供給人懈怠シ或ハ詐僞スル事(刑法第二百九十四條及第二百九十七條)

一 家具(共和曆七年雨月二十二日ノ法律第七條)及新商品(千八百四十六年五月二十日ノ法律)販賣條

例違犯

一 兵器及軍用衣具ヲ賣買スル事(千八百四十六年三月二十四日ノ法律)

第十三 破壊及損害

一 政府ノ許ルセル工事ノ行進ヲ妨クルニ暴行ヲ以テスル事(刑法第二百八十九條及第二百九十一條)

一 官ノ文書或ハ商業手形以外ノ書類ヲ故意ニテ破壊スル事(刑法第五百二十七條)

一 商品或ハ製造ニ使用スル原料ヲ破損スル事(刑法第五百三十三條)

一 苗或ハ收穫物ヲ荒廢スル事(刑法第五百三十五條)

條)

一 森林以外ノ樹木或ハ接木ヲ毀損スル事(刑法第五百三十七條)

一 他人ニ屬スル穀物或ハ馬糧ヲ切斷スル事(刑法第五百四十三條)

一 農業ニ用ユル器具、廠或ハ小舎ヲ破壊スル事(刑法第五百三十六條)

一 車用獸、乘用獸或ハ駄用獸或ハ家畜或ハ魚池中ノ魚ヲ毒殺スル事(刑法第五百三十八條及第五百三十九條)

一 必要ナキニ濫リニ此獸類ヲ撲滅スル事(刑法第五百四十條)

- 一 前同一ノ場合ニ於テ他人ニ屬スル家畜ヲ撲滅スル事(刑法第五百四十一條及第五百四十二條)
- 一 墻垣ヲ破壊スル事(刑法第五百四十五條)
- 一 水堰ノ高サハ行政官ノ定メタルト然ラサルトナ論セス水車或ハ製造所ニ必要ナルノ水堰ヲ甚クシク高フシテ往來或ハ他人ノ所有地ニ水ヲ漲溢セシムル事(刑法第五百五十條)
- 一 疎虞ニ依リ他人ノ動産或ハ不動産ヲ燒失スル事(刑法第五百十九條)
- 一 傳染病ニ罹リタル獸類ヲ放チ或ハ之ニ接觸スル事(刑法第三百十九條、第三百二十條及第三百二十一條)

第十四 水上法及森林法ノ違犯

- 一 森林ニ關スル犯罪(森林法)
- 一 河漁ニ係ハル犯罪(千八百八十三年一月十九日ノ法律)

一 海漁警察法違犯

第十五 田野ニ關スル犯罪

- 一 銃器携帯免狀ノ有無ヲ問ハス銃獵ニ係ハル犯罪(千八百八十二年二月二十八日ノ法律)
- 一 正當ノ事故ナクシテ果實アル圍地内ニ入ル事
- 一 同所ニ於テ果實ヲ取り及食スル事
- 一 獸類及曳獸或ハ馱獸或ハ乘獸ヲシテ收獲物アル所ヲ通過セシムル事

- 一 許可ヲ得タル條件ニ背キテ滯穗ヲ拾集シ或ハ
苜取ル事
- 一 普通ノ畜類ヲ入レ可キ共同牧場内ニ豕ポルカヲ牧養
スル事
- 一 野牛ノ群集セサル所ニ於テ之ヲ繫留シ置カサ
ル事
- 一 他人ノ地面ニ於テ牧養スル事
- 一 諸種ノ鳥獸ヲ他人ノ地面ニ放ツ事
- 一 收穫物除去後二日ノ期限ヲ經過セサル前ニ共
同牧場ニ於テ獸ヲ飼養スル事
- 一 町村條例ニ定ムル所ニ超過スル獸ノ頭數ヲ共
同牧場ニ送ル事

- 一 人家或ハ公道ヲ距ルコト二十米突以下ノ所ニ
於テ蜜蜂巢ヲ設クル事
- 一 公道ヲ通行スル能ハスト判事ノ判定シタル場
合ヲ除ク外通行ノ爲メ田畑ヲ開除スル事
- 一 公道ヲ毀損シ或ハ其幅員ヲ蠶食スル事
- 一 耕シツ、他人ノ地面ヲ横領スル事
- 一 畜類所在ノ圍地中ニ濫入スル事
- 一 石或ハ其他ノ堅キ物及汚穢物ヲ庭園圍地樹木
等ニ投スル事
- 一 接木ヲ損害スル事
- 一 他人ノ地面ニ水ヲ漲溢セシムル事
- 一 田野看守許可ヲ得サル兵器ヲ携帯スル事

- 一 田野看守其巡回及其檢證セル違犯ヲ記載ス可キ手簿ニ記載セサル事
- 一 死シタル獸ノ持主有益ノ目途ナキニ法規ニ從テ之ヲ埋メサル事
- 一 死獸ヲ道路又ハ道路、池、川、運河ニ接續スル所有地ニ棄ル事
- 一 許可セサル時間ニ於テ共同牧場ヲ使用スル事
- 一 灌水溝ノ水ヲ領奪スル事
- 一 他人ノ田畑ヲ發掘スル事
- 一 家屋、森林、牧野、植物、生籬、麥、藁、磨車^{ムウ}及麻ヲ乾カセル場所ヲ距ルコト一百米突以内ニ於テ火ヲ點スル事

- 一 有害物ヲ井戸、獸類ノ飲浴場或ハ貯水器中ニ投入スル事
- 一 魚類ヲ害ス可キ物品ヲ魚池或ハ養魚場中ニ投入スル事
- 一 獸屍ヲ發掘スル事
- 一 他人ノ蜜蜂巢ヲ破壞シ或ハ蜜蜂ヲ殺ス事及其未遂犯
- 一 蜜蜂ノ群ヲ竊盜スル事
- 一 他人ノ地面ニ於テ石、草、土砂、石灰、沃土肥料或ハ餌料ヲ盜ム事
- 一 排水管ヲ破毀スル事
- 一 他人ノ樹木ヲ斬伐シ又ハ其皮ヲ剥ク事

一 交牧權ヲ不正ニ讓與スル事(千八百八十六年十月七日ノ田野法第八十七條以下)

第十六 治術警察法違犯

一 法律ニ背キ内科、外科或ハ産科ヲ行フ事(千八百十八年三月十二日ノ法律)

一 藥劑師ニ非ル者藥劑ヲ調合製造シ又ハ藥用秤ニテ藥材染具ヲ賣ル事(同上法律)

一 面識ノ無キ人ニ毒物ヲ賣ル事

一 藥材染具商人或ハ藥劑師其賣リタル毒物ヲ帳簿ニ記録セサル事

一 許可ヲ得スシテ藥劑ヲ公賣スル事

第十七 郵便法違犯

一 郵便勤務ニ關係ノ無キモノヲシテ書狀及小包ヲ不法ニ運送セシムル事

一 増稅ヲ拂フ可キ有價物ヲ密カニ書狀或ハ小包中ニ挿入スル事

一 書中ノ有價物ノ價格ヲ偽テ多クアリト申立ル事(千八百七十九年五月三十日ノ法律第五十一條以下)

第十八 稅關ニ係ハル違犯(千八百二十二年八月二十六日ノ法律)

第十九 徵兵令違犯(千八百七十三年九月十八日及千八百八十七年八月十六日ノ法律ヲ以テ改正セル千八百七十年六月三日ノ法律)

第二十 鑛業法違犯(千八百十年四月二十一日ノ法律
第九十五條及千八百三十七年六月十日ノ法律

司法及行政警察訓則終

明治二十七年四月廿五日印刷
同 年同月三十日發行

(非賣品)

憲兵司令部

印刷者

橘 磯 吉

東京市京橋區弓町廿三番地

印刷所

三協合資會社

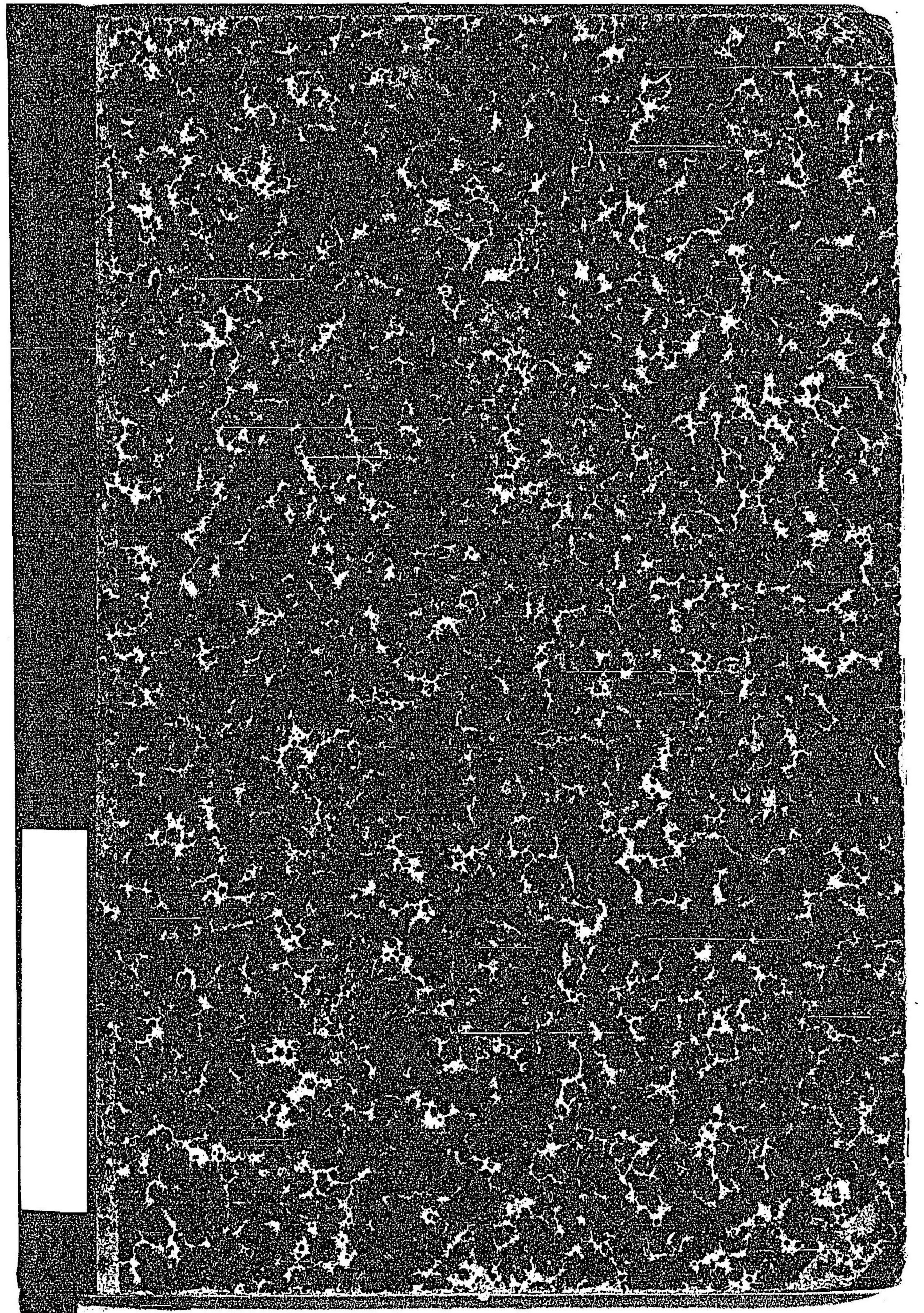
東京市京橋區弓町廿四番地

19
573

12/34

19

513



19
513

十八年八月十八日
司法及行政警察訓則
エル・アングルベール著

036440-000-2

19-513

司法及行政警察訓則

エル・アングルベール／著

M27

BBR-0094

